目次

1. フィールド・プログラムについて 2

2. 海外留学型

2-1. 履修の流れ 4
2-2. 科目評価の構成 5
2-3. 派遣先一覧 5
2-4. 奨学金制度 34
2-5. 京都精華大学海外プログラム等における安全管理に関する規則 35
2-6. 緊急時の連絡先 38

3. 国内交換留学型

3-1. 履修の流れ 40
3-2. 科目評価の構成 41
3.4. 派遣先一覧 41

2017 年度「フィールドプログラム報告展」 46

4. 国内テーマ型

4-1. 履修の流れ 48
4-2. 科目評価の構成 49
4-3. テーマ一覧 49

5. 国内自由型

5-1. 履修の流れ 67
5-2. 科目評価の構成 68
5-3. 注意事項 68

6. その他

6-1. プログラム中のケガや事故について 70
6-2. 活動補助について 70

1. フィールド・プログラムについて

～キャンパスから飛び出し、現場へ出かけます～

３年次前期の間、キャンパスをはなれ国内外のフィールドでの学習を通じ、それぞれの社会や文化を構成する人々の歴史的背景、価値観への理解を深め、人間や社会の多様性と普遍性に触れ、自己や社会を広い視野から批判的・相対的に捉える力を身につけることを目指します。

異文化を体験して自文化を見つめ直す

海外ではアジア圏と欧米・大洋州圏の大学を拠点に実施します。プログラム開始時には教員も同行するアジア圏の各プログラム前半では、現地の語学をはじめ、現地の歴史、文化と社会を学び、演習地について多面的・多角的な理解を深めます。教員が同行しない欧米・大洋州圏のプログラムは語学学習が中心となります。いずれのプログラムも受入機関での授業終了後（一部派遣先では授業と並行して）、自ら設定した課題のフィールドワークを行ないます。

日本の多様性と奥深さを開拓する

国内は京都を中心に、沖縄と北海道も拠点とし、現地の文化を深く掘り下げて学びます。京都には数百年にわたり「生きた」伝統が根付いています。この継承されてきた伝統は、関係するひとびとの中で言語の介在しない「空気」「あたりまえ」のものとなっています。ことばを超えた関係性をもって形成された伝統「社会」の中で、自身のことばをもって伝統を理解することをめざします。

北海道では札幌大学、沖縄では沖縄大学にて半年間交換留学を行ないます。その間、本学が指定した札幌大学・沖縄大学の開講科目を履修しながら、フィールドワークを行い、地域の歴史や文化への理解を深めます。

フィールドを通して「自らを変える＝メタモルフォーゼする」

フィールド・プログラムでは、様々な地域、文化とかかわる中で、これまで普遍的と思っていた価値観や他者のフィルターを通してでしか見てこなかった自文化を含む世界が獲得した新しい世界観によって再構築されます。本プログラムを通じて、人文学部において探求する「人間とはなにか」、「社会とはなにか」という問いを、フィールドに身を置き検証し、プログラム後の専攻領域における研究を豊かな実りあるものとします。また、フィールドにおいて社会が直面する諸問題を主体的に解決するなかで、卒業後に国内外において多様な他者と共生・協働するための礎となる、柔軟性としたたかさを身につけます。

2. 海外留学型

2-1. 履修の流れ（海外留学型）

2018 年度

【前期】

4 月..... フィールド・プログラム全体説明会・履修相談
6 月..... 海外留学型説明会
6 月末..... 参加プログラム仮登録配布（地域学）・個別面談開始
7 月初旬..... 国際交流チーム「安全管理に関する規則」等説明会
7 月中旬..... 参加プログラム仮登録用紙提出
8 月..... TOEIC 試験（学内無料最終）
9 月中旬..... TOEIC-IP 試験（学外有料最終）
9 月末..... 学習準備書提出・面接

【後期】

10 月 .....「現場学」履修開始
10 月末..... 熱帯医学講習（アジア組のみ）
11 月 ..... 現地受入先機関への申請手続開始
12 月中旬..... 学内奨学金選考
12 月末..... 保護者説明会
1 月..... 安全管理オリエンテーション（2 ～ 3 月出発組）
1 月末.....「フィールド・プログラム計画書」報告会
2 月以降..... 順次渡航開始
3 月..... 3 年次進級判定

2019 年度

【前期】

4 月..... 安全管理オリエンテーション（4 月以降出発組）
5 月以降..... 順次帰国
9 月.....「専門演習 3 」（集中講義）履修開始
9 月末.....「フィールド・プログラム最終報告書」提出（「専門演習 3」）

【後期】

11 月初旬..... フィールド・プログラム報告展
1 月末..... 交通費補助申請締切

2-2. 科目評価の構成（海外留学型）

現場学	毎回の授業への出席状況や課題・発表への取り組みに加え、授業内で作成するフィールド・プログラム計画書の内容、1 月末に行われるフィールド・プログラム計画書報告会での発表内容を評価します。
フィールドスタディーズ 1	現地の受入機関で受講した語学クラスの成績評価を、「フィールドスタディーズ 1 ～ 4」の 4 科目 x 2 ＝ 8 単位分に読み替えます。
フィールドスタディーズ 2	
フィールドスタディーズ 3	
フィールドスタディーズ 4	
フィールドスタディーズ 5	フィールド・プログラム計画書で設定したフィールドワークが適切に実施されているかを日報・週報の内容も含めて評価します。
フィールドスタディーズ 6	11 月初旬に予定されているフィールド・プログラム報告展で展示する報告パネル等の作成への取り組み、また報告展での作業内容（設営、報告展当日の案内・説明係の当番、撤収等）を評価します。
専門演習 3	3 年次前期の日報あるいは週報がスケジュール通りに提出されているか、またフィールド・プログラム最終報告書に1年次（場合によっては入学前）から取り組んだフィールド・プログラムの内容が十分に盛り込まれているかを評価します。

2-3. 派遣先一覧（海外留学型）

国・地域		現地受入教育機関		担当教員	期　間	費　用
		学校名	所在地			
アジア	タイ	チェンマイ大学	チェンマイ	是澤 申 山田	2019 年 3 月初旬 ～ 6 月初旬	約 39 万円
	インドネシア	マラナタ基督教大学	バンドン		2019 年 3 月初旬 ～ 7 月初旬	約 41 万円
	ベトナム	ベトナム国家大学ホーチミン市 人文社会科学大学	ホーチミン		2019 年 2 月 26 日 ～ 6 月 1 日	約 40 万円
	韓国	大邱大学校	大邱		2019 年 3 月初旬 ～ 7 月末	約 39 万円
	台湾	静宜大学	台中		2019 年 2 月下旬 ～ 6 月下旬	約 35 万円
北米・大洋州	アメリカ	カリフォルニア大学 デービス校 Extension Center	デービス	磯辺 細川 籔内	2019 年 3 月 25 日 ～ 6 月 23 日	約 79 万円
		ニューヨーク市立大学 ハンターカレッジ IELI	ニューヨーク		2019 年 2 月下旬 ～ 7 月下旬	約 127 万円
	カナダ	ブリティッシュコロンビア大学 English Language Institute	バンクーバー		2019 年 5 月 5 日 ～ 8 月 3 日	約 60 万円
	オーストラリア	モナシュ大学 Monash College	メルボルン		2019 年 2 月下旬 ～ 7 月下旬	約 68 万円
	ニュージーランド	オークランド工科大学 International House	オークランド		2019 年 4 月末 ～ 7 月末	約 59 万円
欧州	フランス	パリ・カトリック大学 ILCF	パリ	佐々木 白井 田村	2019 年 2 月 3 日 ～ 6 月 1 日	約 108 万円
		西カトリック大学	アンジェ		2019 年 2 月初旬 ～ 6 月初旬	約 84 万円
	ドイツ	ライプチヒ大学 附属国際語学協会	ライプチヒ		2019 年 5 月初旬 ～ 8 月末	約 70 万円
	スペイン	グラナダ大学 現代言語研究センター	グラナダ		2019 年 5 月 1 日 ～ 7 月 29 日	約 61 万円

※費用は現地の物価や為替の変動、フィールドワーク期間の設定などにより上下しますので、あくまで目安として下さい。

タイ

期　間：2019 年 3 月初旬～ 6 月初旬
費　用：約 39 万円

チェンマイは、首都バンコクの北約 700km の花々が咲き乱れる美しい高原地帯に位置し、その美しさは「北方のバラ」と表現されるほどです。歴史的建造物が最も多い古都としても知られており、東西 1.8km、南北 2km の四角い塀に囲まれた旧市街が古の風景を現代に伝えています。一方で、チェンマイは人口約 3,000,000 人、タイ王国第 2 の都市として発展しており、タイ北部の行政、経済、産業、文化の中心地でもあります。旧市街と周辺に発達した新市街とが対照的な風景を生む趣ある街です。

【現地受入機関】

チェンマイ大学
http://www.cmu.ac.th/en/
所 在 地 ：チェンマイ
授業期間：3 月 10 日～ 5 月 5 日
（2017 年度日程）
宿　　舎：寮

1964 年に創立されたチェンマイ大学は、タイ北部地域での学術研究拠点として最も評価の高い大学の一つで、20 学部を擁する巨大な総合大学です。本学人文学部との協力関係も 20 年を超え、多くの学生を同大学へ派遣してきました。現地において活躍されている卒業生もいます。本プログラムでは、タイ語やタイ文化、歴史を同大学の人文学部において学んだ後に、各々の研究テーマにもとづきフィールドワークを実施します。

【フィールドワーク】

期間：5 月 6 日～ 6 月 5 日（2017 年度日程）

テーマ例：

・タイ北部の山岳民族、少数民族の生活や文化に関する調査
・チェンマイの伝統芸能（舞踊や音楽）に関する調査
・タイ社会におけるジェンダーやセクシュアリティに関する調査
・タイ社会におけるＨＩＶ／ＡＩＤＳの現状と課題に関する調査
・タイ社会におけるセックスワーカーのありかたに関する調査
・タイ社会におけるストリートチルドレンや社会的格差に関する調査

【費用】約 39 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	寮費	査証申請費
	約 8 万円	約 4.9 万円	約 9 万円	約 1 万円
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 3 万円	約 8 万円	約 5 万円	

※ 1 バーツ =3.4 円で換算。

インドネシア

期　間：2019 年 3 月初旬～7 月初旬	
費　用：約 41 万円	

インドネシアは東南アジアで最も人口の多い国であり、約 2 億 5000 万人が1万 3400 以上の島々に居住しています。多宗教・多民族国家で、世界で最もイスラム人口の多い国としても知られています。本プログラムが実施されるマラナタ基督教大学のある西ジャワ州の州都バンドンは、インドネシアのジャワ島西部に位置しており、首都ジャカルタから約 140km 離れています。様々な山に囲まれた海抜 800m ほどの高地に位置し、熱帯気候でありながら年間平均気温は 24 度、よく「フラワーシティ」とたとえられ、非常に過ごしやすいまちだと言われています。またバンドンはインドネシア 4 番目の都市として、経済と文化を中心に発展してきました。人口は 250 万人、人口密度は 14,000/㎢を超え、各地域からの流入者が多いまちです。インドネシアで 2 番目に人口が多い民族、スンダ人の故地でもあり、今でもスンダ人の様々な文化（居住文化・食文化・服飾文化等）やスンダ語が色濃く残っています。政治面では、1955 年に初のアジア・アフリカ会議がバンドンで行われ、ポストコロニアル運動との関連で語られることの多いまちです。建築家・都市計画家でもある現市長がバンドンをグリーンシティにすると宣言し、いたるところにポケットパークやコミュニティパークが設けられ、市民の生活を改善するための様々なソーシャルデザインが行われています。

【現地受入機関】

マラナタ基督教大学
http://international.maranatha.edu/
所 在 地 ：バンドン
宿　　舎：下宿

マラナタ基督教大学はキリスト教医学生を支援する団体として 1965 年に設立されました。現在、8 学部と大学院を含む総合大学として、様々な人種、宗教の学生を受け入れています。本プログラムは、文学部日本語学科が担当し、授業はインドネシア語（Bahasa Indonesia）の初級から始まります。また、毎週、インドネシア文化研究授業（講義系）、インドネシア文化体験授業（ワークショップ系）が実施され、ほとんどの授業は英語で行われますが、それぞれに通訳がつきます。さらに月に1回、日本語を勉強しているインドネシアの学生たちとの交流会や、ソーシャルデザイン･ワークショップ、ビデオ上映会などが予定されています。これらに加えて、ライブイン・プログラム（インドネシアの田舎生活体験）やホームステイ・プログラムなど、インドネシアの他のまちへのフィールドトリップも行われる予定です。

【フィールドワーク】

期間：3 月初旬～ 7 月初旬（2018 年度日程）

テーマ例：

インドネシアは多民族・多宗教国家であり、人口の非常に多い国です。バンドンの市街地では、数多くの地域文化（スンダ人の文化）のほか、若者の流行や様々なサブカルチャーも見ることができます。また、最も人口の多いイスラム社会に関連する様々な文化事象、例えばイスラム寺院であるモスクや、イスラムに特有の女性の服装、礼拝時間･行為、飲食の制限等も見ることができます。社会的には多民族性や社会における女性の地位、ストリートチルドレンや都市と周辺地域の格差と変化の問題、また経済的には数多く存在する日本企業の経済活動や駐在員をめぐる問題、さらにはインドネシア内の国際社会、東南アジアとインドネシア等の経済ネットワーク等も調査対象として考えられるでしょう

- 社会生活（衣食住）
- 宗教活動（モスク、服装、学校）
- 児童問題（ストリート・チルドレン、児童労働、少年院）
- サブカルチャー（書店、マンガ、コスプレ、地域コミュニティ）
- 環境問題（ごみ処理システム、郊外農地）
- 創造産業（ファッション、カフェ）
- 地域文化（伝統音楽、人形劇、竹細工）

【費用】約 41 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	査証申請費	
	約 12 万円	約 6.5 万円	約 1.5 万円	
滞在中	交通費	食　費	家　賃	その他
	約 1 万円	約 7.5 万円	約 9.5 万円	約 3 万円

※ 1 ルピア =0.0086 円で換算。

ベトナム

期　間：2019 年 2 月 26 日～ 6 月 1 日	
費　用：約 40 万円	

ベトナムは、東南アジアのインドシナ半島東部に位置します。社会主義共和制国家ですが、1980 年代後半からの市場経済の導入（ドイモイ）により急激な経済成長を遂げました。

勤勉な国民性と人件費の安さから、日本をはじめとする世界中から工場建設等の投資が行われ、今なお成長を続けています。受け入れ機関の所在地であるホーチミン市は、南北に弓状の国土が広がるベトナムの南部に位置します。ベトナム戦争終戦まではサイゴンと呼ばれ、今でも市中心部を流れる河川名や市の北西部にある鉄道駅名にその名を残しています。

ベトナムの歴史は、被征服の歴史と言っても過言ではありません。古くは漢、唐、明といった中国王朝の支配を受け、近代に入ってからは、フランス、日本、アメリカ等の支配を受け、1975 年のベトナム戦争の終結を受けて、ようやく統一と独立を果たしています。

ベトナムは 54 民族が暮らす多民族国家であり、文化的には中国の影響を強く受けつつも、多様性を有しています。村祭りの際に青年男女が歌合戦形式で歌う恋愛歌に由来するクアンホーと呼ばれる民謡やそれと軌を一にした民衆文学、やはり村祭りなどで演じられるハット・チェオと呼ばれる民族歌劇、絹織物の上に主に女性像が描かれる絹絵、美しい貝殻細工が施された漆絵等の伝統的な文化が健在です。一方でホーチミン市には、ベトナムのポップ音楽をライブで楽しめる歌謡喫茶や野外ステージもあります。

ベトナムはタイを抜いて米輸出が世界２位になったこともある農業国であり、豊かな農村的な暮らしが維持される一方で、近年の経済成長にともなって、都市機能が充実し、都市的な暮らしも進展しています。しかしながら、格差の拡大、汚職・腐敗、交通渋滞、環境汚染、ジェンダー等の社会問題も抱えるようになっています。

【現地受入機関】

ベトナム国家大学
ホーチミン市人文社会科学大学
http://www.cmu.ac.th/en/
所 在 地 ：ホーチミン
授業期間：3 月 1 日～ 5 月 31 日
宿　　舎：ホームステイ

午前中はベトナム学部が開講するクラスで、日本の他大学、外国の他大学の学生ともに、ベトナム語を時間をかけて集中的に学びます。

午後はベトナム社会や文化に関する授業で、日本学部の教員から、地理と歴史、協調と抵抗のフランス統治時代、ベトナム戦争、農村社会、食べ物と飲み物、人々の文化や行動様式、経済、産業、家族や社会など、ベトナムに関する広範な知識を学びます。自習の時間は、図書館を利用して自習を行い、疑問点等については相談員からのアドバイスを受けます。また週に1回、５月に始まるフィールドワークについての指導、相談、助言を受ける時間が設けられています。その他、京都精華大学に留学の経験がある元留学生にからも指導やアドバイスを受ける機会が週に1回設けられる予定です。

【フィールドワーク】

期間：5 月 1 日～ 5 月 31 日

テーマ例：

・ベトナム戦争について（戦争証跡博物館、統一会堂、ツーズー病院、クチトンネルなど）
・庶民の生活について（生活市場、観光市場、まちあるき、郷土料理店、イオンモールなど）
・貧困にあえぐ子供達の救済について（ＦＦＳＣ、子供たちの通う小学校、工房など）
・ベトナムのものづくりについて（漆絵工場、コーヒー園、工業団地など）
・環境問題について（サイゴン川、メコンデルタ、カマウ半島のマングローブ林など）

ベトナムに関する全般的かつ基礎的な知識を得るには、『地球の歩き方　ベトナム 2015 ～ 2016 年版』（ダイアモンド社、2015 年 7 月）の「ベトナム百科」のページが参考になります。同書は生活、交通、治安等に関する情報も詳しいです。さらにベトナムに関する知識を深めるには、今井昭夫・岩井美佐紀編著、『現代ベトナムを知るための 60 章 第2版』（明石書店、2012 年）があります。同書は分野別にベトナムに関する参考文献リストも充実しており、具体的なテーマが決まった場合にはおおいに役立ちます。

【費用】約 40 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	寮　費	査証申請費
	約 10 万円	約 4.9 万円	約 13 万円	約 1 万円
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 3 万円	約 5 万円	約 3 万円	

※ 1 ドン =0.005 円で換算。

韓国

期　間	2019 年 3 月初旬～7 月末
費　用	約 39 万円

韓国第 3 の都市大邱は、古い伝統文化が深く根付いている都市であり、行政・経済・文化上の中心的な役割を果たしていた歴史都市です。そして、今日の韓国を象徴する電子ＩＴのグローバル企業「三星（Samsung）」が起業した縁の地でもあります。今の大邱は最先端のＩＴ技術が使われている近未来都市でありながら、古い歴史が薫る伝統的な街並み併存しています。東大邱駅から高速列車ＫＴＸを利用すれば、ソウルまで 1 時間 50 分、釜山まで 50 分で行くことが出来ます。

1946 年に大邱盲唖学校から始まった大邱大学校は、1981 年に総合大学へ昇格・認可された私立大学です。大邱大学校は、多くの留学生がいる国際化キャンパス第 1 位で、就職率も韓国第 9 位の大学です。広大なキャンパスの大邱大学校はとても奇麗で「美しいキャンパス」ＴＯＰ 10 に選ばれています。

大邱は大邱大学校を含め 15 以上の大学が集中している学園都市であり、多くの若者や留学生たちが共に生活している学生の街です。何よりも、安くて美味しい食べ物や最新のファションおよび若者文化の流行を肌で感じることが出来る場所に大邱大学校があります。

【現地受入機関】

大邱大学校
https://jpn.daegu.ac.kr/
所 在 地 ：大邱
期　　間：3 月 5 日～7 月 27 日
（2018 年度日程）
宿　　舎：寮

韓国語学堂では、基本的な文法、語彙、聞き取り、話し方、書き方など体系的に学習を行っています。自己紹介、買い物、食べ物注文することなど生活に必要な基礎的な言語機能を遂行することができる 1 級レベルから、自分の専門分野での研究や業務遂行に必要な言語機能を比較的正確で上手に遂行することができる 6 級レベルまで段階的に教育を受けることが出来ます。また、韓国文化体験授業を通じて韓国文化に対する理解を広めて学習の効果を高めるプログラムが盛り込まれています。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
9:00-13:00	韓国語				
午後		文化体験等			

【フィールドワーク】

期間：3 月 5 日～ 7 月 27 日（2018 年度日程）

テーマ例：

① 韓国の習字・書道を学ぼう。（「Dokyong 書芸学院」にて実施予定）
② 韓国の伝統舞踊を学ぼう。（「大邱文化芸術会館」にて実施予定）
現在、上記のテーマが 2 名の学生によって実施されています。

韓国の文化、歴史、政治、社会状況を知りうる内容のテキスト紹介。

国立国語院編『韓国伝統文化事典』教育出版　2006
伊藤亜人監修『朝鮮を知る事典』平凡社　1998
石坂浩一編『現代韓国を知るための 55 章』明石書店　2005

【費用】約 39 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	海外旅行保険料	査証申請費
	約 4 万円	約 8.9 万円	約 6.5 万円	不要
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 1 万円	約 15 万円	約 3 万円	

※受入先への申請時（11 月）に US$5,000 相当（約 56 万円）の銀行残高証明書が必要。
※寮費については免除・減額の可能性あり。詳細は学生グループへ確認。

台湾

期　間	2019 年 2 月下旬～ 6 月下旬
費　用	約 35 万円

台湾（正式名称：中華民国）は、沖縄のさらに南に位置する島国です。主要都市は台北、台中、台南、高雄。気候は温暖。面積は九州とおなじくらいなので、居住する台中市からはいずれの都市にも高速バス、電車いずれも２～３時間ぐらいで安価に移動することができ、広域の調査活動が可能です。

現地受入機関の静宜大学（英語名：Providence University）はカトリックの大学で、その歴史は 1920 年にさかのぼりますが、1963 年「静宜女子文理学院」、1993 年「静宜大学」として共学になります。外国語文学部、人文社会科学部などの５学部からなり、外国語学部には日本語文学科があります。学生数は約 12,000 人。台中市の中心にある台中駅から駅始発のＢＲＴ（バス高速輸送システム）の終着が静宜大学です。一時間ほどで便利です。

台湾と日本との関係は古く、明治の日清戦争で勝利したことにより割譲されてから、太平洋戦争で日本が敗戦する昭和 20 年までの 50 年間を日本が統治していました。現在の台湾にも昔の日本の影響が様々なところに色濃く残り（総統府は旧総督府を現在も活用：写真）、それを見つける事も興味深い体験です。

なんといっても台湾の人々は、気遣い不要のフレンドリーな人が多く、その国民性に驚くことでしょう。

【現地受入機関】

静宜大学	
http://www.pu.edu.tw/	
所 在 地	台中
期　　間	2 月下旬～ 6 月下旬
宿　　舎	寮

宿舎は寮で学内と学外に複数あり、男女別棟です。２～４人部屋で、ルームメイトは日本人とは限りません。中国語の授業は他国の留学生と一緒に受講します。クラスはレベル分けされており、自分のレベルに合ったクラスを選択できます。學伴と呼ばれるパートナー（日本語文学科とＩＦＢ：交換留学生対象のボランティアグループの学生）がつき、学習や生活面での支援もあります。日本語文学科において開講される台湾や日台関係などに関する授業も履修できます。図書館は十階建てと大きく、日本語文学科があるので日本（語）の書籍コーナーもあります。

【フィールドワーク】

期間：2 月下旬～ 6 月下旬（2018 年度日程）

テーマ例：

1．建築について　建築物探訪（台湾の古蹟・伝統建築物・日本統治期の建築物の保存とその観光利用等）。
2．宗教について　道教（廟探訪等民間信仰）。
3．民族について　台湾アイデンティティ、原住民族探訪。
4．民俗について　夜市探訪。
5．歴史について　オーラルヒストリー、日本統治期の台湾の日本語教育をうけた世代との交流。
6．文化について　台湾のグローカル（マクドナルド、吉野屋、アニメ、マンガ、100 円ショップ等の商業施設）。

7．飲食について　台湾料理、屋台、喫茶、日本食等。
8．温泉について　日本統治時代に発見された温泉が各地にあります。
9．交通について　台湾の鉄道、交通網の発展。
10．歴史について　台湾の歴史（オランダ統治時代・日本統治時代等）。

そのほか様々なテーマがあります。

台湾に関する情報は、毎年講演に来校される現地在住作家片倉佳史氏のＨＰ（台湾特捜百貨店　http://katakura.net/）より入手できます。また、台湾の歴史や社会について知るには、下記の文献があります。

司馬遼太郎『街道を行く 40　台湾紀行』（朝日文庫新装版，2009 年刊）初出は 1994 年。
小林よしのり『新ゴーマニズム宣言 SPECIAL 台湾論 』（小学館文庫，2008 年刊）初出は 2000 年。
片倉佳史『旅の指さし会話帳８　台湾』第 2 版，情報センター出版局。

【費用】約 35 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	査証申請費	
	約 4 万円	約 8.9 万円	約 0.6 万円	
滞在中	交通費	食　費	家　賃	その他
	約 2.5 万円	約 10 万円	約 6 万円	約 3 万円

※受入先への申請時（11 月）に US$2,000 相当（約 23 万円）の銀行残高証明書が必要。
※寮費は現地到着後、数日中に現金（台湾元）で支払います。

アメリカ（1）

期　間	2019 年 3 月 25 日～ 6 月 23 日
費　用	約 79 万円

カリフォルニア州サンフランシスコから車で 1 時間ほどの自然豊かな街デービスにある緑あふれる広大なキャンパスで各国からの留学生たちと共に学べる 10 週間の英語学習プログラムです。学生の街であるデービスは治安も良く、気候も穏やかでのんびりとした自然環境の中で学びを深めることが出来ます。週末には国際色豊かなサンフランシスコや州都サクラメント、時間を見つけてロサンゼルスやハリウッドを訪れるなど、アメリカ西海岸の歴史・文化を体感しながら興味あるテーマに沿ったフィールドワークに取り組めます。

【現地受入機関】

カリフォルニア大学デービス校 Extension Center	
https://cie.ucdavis.edu/	
所 在 地	デービス
授業期間	3 月 27 日～ 6 月 7 日
参 加 プ ロ グ ラ ム	Intensive English Program-10weeks
宿　　舎	ホームステイ

Intensive English Program（ＩＥＰ）は、少人数クラス（18 人以下）で語学力を短期間で効果的に向上させる 10 週間集中プログラムです。月曜から金曜日までの授業（週 22 時間）は、習熟度（8 レベル）に応じて Grammar、Reading and Vocabulary、Listening and Speaking、Critical Thinking 等の科目を中心にして行われます。ＩＣＴ活用による週 2 時間の自習時間も設けられています。放課後には UC Davis の学生たちが主催するレクリエーションや交流会、週末にはカリフォルニアの観光名所を巡るオプショナルツアーなどが企画されており、語学学習と共に幅広い異文化体験の機会が用意されています。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
9:00-9:50	Grammer				
10:00-10:50	Composition				
11:00-11:50	Reading and Vocabulary				
11:50-13:40	Lunch Break				
13:40-14:30	TOEFL Preparation				
14:30-15:30		ILC Lab		ILC Lab	
15:30-17:00	ボーリング	レクチャー	会話ｾｯｼｮﾝ	映画	交流会

【フィールドワーク】

期間：6 月 8 日～ 6 月 21 日

テーマ例：

（1）多文化共生：アジアやラテンアメリカの移民を多く受け入れ、国際色あふれる街サンフランシスコにおけるマイノリティ・グループの在り方（チャイナ・タウンなど）

（2）多様性の尊重と人権運動：全米最大のＬＧＢＴコミュニティーの形成および毎年 6 月に開催されるプライド・パレードの歴史と社会的な理解の高まり

（3）ジェントリフィケーションの様相：従来の貧困地区へ裕福な人々が流入する人口移動現象が家賃の高騰や治安の変化など社会に与える変化（ミッション地区など）

（4）食と文化:サンフランシスコ生まれの『Blue Bottle Coffee』など「第三の波」と呼ばれるコーヒー文化など、スローフードの動きと連動した人々の嗜好の変化

【費用】約 79 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 15 万円	約 4.9 万円	約 26 万円	約 6 万円
滞在中	交通費	食　費	宿泊賃	その他
	約 4 万円	約 12 万円	約 8 万円	約 3 万円

※ホームステイは 10 週間、2 食付で US$2.397。

※ US$1=106 円で換算

アメリカ（２）

期　間：2019 年 2 月下旬～7 月下旬
費　用：約 127 万円

このプログラムは、ニューヨークでの 16 週間にわたる英語学習とフィールドワークを組み合わせたものです。ニューヨークはアメリカ合衆国最大の都市です。人口はマンハッタンだけで 163 万人、ニューヨーク市全体では 849 万人（2014 年の国勢調査）で、アメリカでもっとも人口の多い都市です。人口比率はヨーロッパ系 45%、中南米系 27%、アフリカ系 25%、アジア系 10%となっています（2010 年国勢調査）。この多文化都市ニューヨークは金融や商業から、文化、ファッション、娯楽にいたるまで、大きな影響力をもっており、フィールドワークのテーマも豊富に考えられます。このような素晴しい環境でフィールド・プログラムに参加してみませんか。

【現地受入機関】

ニューヨーク市立大学ハンターカレッジ International English Language Institute
http://www.hunter.cuny.edu/ieli
所 在 地 ：ニューヨーク
授業期間：3 月 14 日～7 月 20 日
※ 2 月下旬にレベルチェック
（2018 年度日程）
宿　　舎：下宿

Academic Skills Program という８週間の学習ユニットを２ユニット履修します。この学習ユニットは、Grammar、Academic Writing、Academic Reading, Vocabulary and Test-taking Skills、そして Oral Skills の４科目から成ります。月曜日から金曜日の日中の授業で、熟達度に応じて、レベル1から８までのクラスに配当されます。また希望に応じて、夜や土･日のクラスや他のキャンパスで開講されている科目を履修することも可能です（要追加料金）。チューター制度があり、個別指導を受けることも可能です。キャンパスの施設はプールを除いて（→理由はとても小さいため）本科生と同じように利用することができます。また日本語学科の学生との Language Exchange の機会もあります。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
8:00-10:05	Grammer	Writing	Grammer	Writing	
10:15-11:55	Oral Skills	Reading	Oral Skills	Reading	

【フィールドワーク】

期間：3 月初旬～ 7 月下旬（2018 年度日程）

テーマ例：

（1）ニューヨークのアート事情
　メトロポリタン美術館、グッゲンハイム美術館、近代美術館、ミュージアムマイルの美術館群、チェルシー地区のギャラリー群、地下鉄やダウンタウンのパブリックアートなど。

（2）ニューヨークの公園計画
　ハイライン、ローライン、セントラルパークなどの公園、ニューヨーク市公園局。

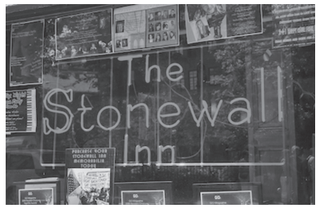
（3）ニューヨークにおける多文化共生施策
　チャイナタウン、リトルイタリー、ハーレム（アフリカ系の人々が多い）、ジャクソンハイツ（インド系・パキスタン系の人々が多い）など。

（4）その他
　9.11 前後のニューヨーク都市計画比較、ニューヨークの地下鉄の現状と課題について、スクールコミュニティにおける多様性について、ニューヨークにおける「周縁」と「中心」、ニューヨークにおけるホームレスへの政策的取り組みとその実態、アメリカにおける演劇の変革など。

【費用】約 127 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	査証申請費	
	約 20 万円	約 8.9 万円	約 6 万円	
滞在中	交通費	食　費	家　賃	その他
	約 6.5 万円	約 23 万円	約 60 万円	約 3 万円

※申込時に査証申請のため受入機関の指定する金額２万ドル相当の銀行残高証明書が必要。
※ US$1=106 円で換算。



カナダ

期　間：2019 年5月 5 日～ 8 月 3 日
費　用：約 60 万円

世界で最も美しく住みよい街のひとつといわれるカナダ西海岸のバンクーバーは、アジアからの移民を含め世界各国から多くの人々が集う国際都市です。活気あふれる中心街から車でわずか 20 分程にある緑豊かな森と海に囲まれた広大なＵＢＣキャンパスには、病院・消防署から人類学博物館や植物園まであらゆる施設が整い、安心で快適な留学生活を送ることが出来ます。2 つのコースを組み合わせた計 12 週間の英語学習と興味あるテーマに沿ったフィールドワークを行う充実したプログラムです。

【現地受入機関】

ブリティッシュコロンビア大学 English Language Institute
http://eli.ubc.ca/index.html
所 在 地 ：バンクーバー
授業期間：5 月 6 日～ 8 月 2 日（2018 年度日程）
参加プログラム：
Intensive English Program（5/6 ～ 6/26）
English for the Global Citizen（7/8 ～ 8/2）
宿　　舎：ホームステイ

はじめに履修する Intensive English Program は英語のスキル向上に特化した 8 週間集中コースで Reading、Writing および Speaking and Listening の力を総合的に伸ばします。

習熟度（7 レベル）に応じて 3 つの授業（1 コマ 100 分）が月曜から木曜日の 4 日間行われ、金曜日は自由選択のワークショップが開かれます。ひき続き履修する English for Global Citizen（4 週間）は、世界市民という視点から環境やメディアなど社会的なテーマを取り上げながら、各国の学生たちと共に学びを深めていきます。課外活動としては、Cultural Assistants（ＣＡｓ）としてＵＢＣの学生たち自らが企画するスポーツや文化体験などのアクティビティに自由に参加することが出来ます。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
8:30-10:10	Reading				
10:20-12:00	Writing				Workshop
12:00-13-00	Lunch Break				
13:00-14:40	Speaking and Listening				Workshop

※ 10:20 ～ 16:30 の可能性もあり。

【フィールドワーク】

期間：5 月 6 日～ 8 月 2 日

テーマ例：

（1）多文化共生の歴史：民族や言語が多様で、各国からの移民とくにアジア系住民が多数を占めるコミュニティーの形成の現状を調べる（日系人カナダ人社会など）

（2）多様性の尊重：ＬＧＢＴの大きなコミュニティーが形成されており、人々の意識の在り方や社会での平等性の確保への取り組みを調査する（Rainbow flag や Pride parade など）。

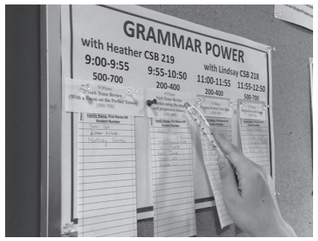
（3）マイノリティへの配慮：身体的なハンディキャップを抱える人々に対する社会的な配慮とそのシステムの違いを比較検討する（路線バス・電車等の交通機関および公共施設）

（4）食と健康：ナチュラル志向を反映して、有機野菜や果物を扱う店も多く、また「グルテン・フリー」を好む人々の増加など、健康への意識の高さを調査研究する。

【費用】約 60 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 15 万円	約 4.9 万円	約 30 万円	不要
滞在中	交通費	その他		
	約 3 万円	約 7 万円		

※ホームステイは 12 週間、3 食付で CA$3,448。
※現地においてテクスト代が 15,000 円ほど必要。
※ UBC 指定保険への別途加入が必要。
※ CA$1=86 円で換算。



オーストラリア

期　間：2019 年 2 月下旬～7 月下旬	
費　用：約 68 万円	

正式な国名である Commonwealth of Australia（オーストラリア連邦）は Commonwealth of Nations（英連邦：ゆるやかな国家連合であり、連邦を構成する国家は対等な独立国家）に由来します。オーストラリア連邦は、５つの州、１つの準州、首都特別地区、自治権をもつ複数の島で構成されています。今回の受け入れ地であるメルボルンは、大陸最南部に位置するヴィクトリア州の州都（人口は 400 万人強）です。日本と同じように四季がはっきりしており、また、１日の中でも四季があるともいわれます。１年を通してみどり豊かな美しい都市です。シドニーと共に多文化主義の国としてのシンボル的都市であり、さまざまな民族の共同体が共存しています。また、現在もひきつづき多くの移民や難民受け入れを実施していることでも有名です。しかし、この多文化主義への転換は 1970 年代半ばのことであり、その歴史はまだ半世紀にも満たないのです。したがって、未ださまざまな問題を抱えているのは確かではあるのですが、現在の世界の混沌とした状況を解決するためのヒントを与えてくれることも間違いありません。興味は尽きない国であり、都市であると言えます。

【現地受入機関】

世界各国からの留学生が、モナシュ大学の本科へ入学・編入することを前提とした語学プログラムなので、学習内容・方法ともに非常に充実しています。レベル１～７まであります。カレッジは市内中心部にあるため交通等の利便性は非常に高いです。学習環境としても申し分なく、広くかつ清潔で、快適です。

モナッシュ大学 Monash College

https://www.monashcollege.edu.au/english-language-services

所 在 地 ：メルボルン

授業期間：4 月 26 日～7 月 6 日（2018 年度日程）

参加プログラム：Monash English

宿　　舎：ホームステイ

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
8:45-12:45	Monash English Classes				
12:45-13:00	Lunch Break				
13:00-16:00	Independent Learning				

※プレースメントテストの結果、授業（Monash English Classes）が 13:00 ～ 17:15 になる可能性があります。

【フィールドワーク】

期間：7 月 7 日～7 月 22 日（2018 年度日程）

テーマ例：

・オーストラリアへの移民の歴史（移民博物館を手掛かりに）
・最近の難民受け入れについて（訪問先：市内フッツクレイおよびサンシャイン）
・市内のマーケットにみる多民族社会
・都市アボリジニー（先住民族）の美術、文化復興運動（Koorie Heritage Trust 等を手掛かりに）
・オーストラリアの大学と学生の国際性について（訪問先：モナシュ大学など）
・メルボルンにおける日本語補習学校について（訪問先：http://www.jsc-mel.com/aboutjsc）

※モナシュカレッジでの授業期間中、語学学習とそれ以外に関わるサポートをそれぞれ５名ずつのスタッフが毎日やっているので、そこで色々相談すれば、日本で計画した調査案をさらに展開させたり絞り込んだりすることができるでしょう。

【費用】約 68 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 15 万円	約 4.9 万円	約 41 万円	査証不要
滞在中	交通費	その他		
	約 4 万円	約 3 万円		

※ホームステイは 12 週間、3 食付で AU$4822。
※食費・宿泊費はフィールドワーク期間のみ必要。
※ AU$1=85 円で換算。

ヤラ川から望むメルボルンシティ

箱乗りパッフィンビリー鉄道

ハトがチェス？

カフェ !!??

BEN&JERRY'S のアイス

オーガニックベジタブルズ

ニュージーランド

期　間：2019 年 4 月末～7 月末
費　用：約 59 万円

ニュージーランドは、英国の小さな田舎町のような雰囲気もある一方で、先住民族マオリの復権が進み、さらに近年は欧州以外からの移民を積極的に受け入れ、多民族・多文化社会へと変貌をとげています。とくにオークランド市は、マオリのほか、サモアをはじめ南太平洋諸島からの移民が大勢暮らしていて、また世界各地からの留学生も非常に多いので、とてもコスモポリタンな活気に満ちています。City of Sails（帆船の並ぶ街）という愛称の通り、天然の良港とおだやかな気候に恵まれ、治安もよく、暮らしやすい町です。多民族社会にしては人々の英語はスタンダードで聞き取りやすく、話す速度もゆっくりなので助かります。ニュージーランド北島の北部と南部をつなぐ要衝に位置し、国内旅行の拠点としても便利なところです。

ニュージーランド全般の特色として、海・山のアウトドア活動が盛んで、自然保護の取組みも先進的であること、社会福祉が高度に発達していること、女性の社会進出が顕著であること、農業酪農や鉱業など第 1 次産業中心の経済だがグローバル化の波のなかで揺れていること、国をあげて「反核」の姿勢が鮮明なこと、スポーツとアートが生活の身近にあること、先住民族マオリの存在感が大きくその文化や伝統にふれる機会が多いこと、多民族共生社会を着実に実現しつつあること、などが挙げられます。

【現地受入機関】

オークランド工科大学 International House
http://www.aut.ac.nz/study-at-aut/international-students/international-house
所 在 地 ：オークランド
期　　間：4 月 30 日～ 6 月 22 日
（2018 年度日程）
参加プログラム：General English Course
宿　　舎：ホームステイ

世界各国で英語教育を展開するインターナショナル・ハウス（ＩＨ）という国際組織にニュージーランドで唯一加盟し、質の高い英語教育を提供しています。語学以外の勉強や生活面での学生への支援体制も充実しており、受講者にはオークランド工科大学（ＡＵＴ）の正規の学生証が発行され、学内学外の施設で学割となります（バスは対象外）。金曜午後の social activities では、英語教員とともに学外の文化施設の訪問や、アウトドア活動（ラグビー観戦、カヤック体験など）を行なっています（参加費無料。入場料等の実費負担）。毎週水曜日夕方には日本語学科で学ぶ学生との交流の機会もあり、週末には、希望者むけに様々なフィールドトリップが用意されています（一般のツアーよりも割安）。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
8:00-11:00	General English Core Classes（必修）				
11:20-12:50	Elective Classes（選択必修）				Social Activities

※中級以上のクラスに配属されると Elective Classes で New Zealand Studies が履修できます。

【フィールドワーク】

期間：6 月 23 日～ 7 月 23 日（2018 年度日程）

テーマ例：

左に挙げたニュージーランドの特色とみなさんの関心がクロスするところでテーマ設定するとよいでしょう。明石書店『ニュージーランドを知るための 63 章』（2008）が良い手掛かりになります（事前学習で使用）。

多民族社会なので、食の多様性は調べやすいテーマでしょう。自然保護、アウトドア活動、観光、スポーツに関連したテーマも好適です。また、「子育て先進国」としても知られるニュージーランドですので、男女協働や子どもの生活環境について考えるよい機会になります。マオリの歴史、工芸（木彫、織物、染色など）、音楽、ことば、文化復興運動などについて実地に学ぶのもニュージーランドならではのチャンスでしょう。日本と共通の課題として、地震火山防災について較べてみるのも興味深いテーマです。

【費用】約 59 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 12 万円	約 4.9 万円	約 30 万円	査証不要
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 5 万円	約 4 万円	約 3 万円	

※ NZ$1=80 円で換算。
※ホームステイは 12 週間、平日朝夕食、週末 3 食付で NZ$3,750。
※現地にて教科書購入時にクレジットカードが必要。

フランス（１）

期　間：2019 年 2 月 3 日～ 6 月1日	
費　用：約 108 万円	

受入機関となるパリ・カトリック大学フランス言語文化学院のメインキャンパスは、フランスの首都パリの中心地区の一つ、モンパルナスから徒歩 15 分ほど、サンジェルマン・デ・プレ教会からは 20 分ほどのところの賑やかな街区に位置していますが、一歩キャンパスに入ると、教室や図書館の入った建物が大きな庭をぐるりと囲んでおり、周囲の喧騒を忘れさせてくれる静かな環境で学ぶことができます。大学は 1875 年に設立され、現在では文学、哲学、教育、社会科学・経済、法学、神学の 6 学部と、派遣先となるフランス言語文化学院を含む 4 つの学院から構成されています。よく知られているように、中世以降、パリはヨーロッパの芸術と文化の中心の一つであると同時に、今日に至るまで社会的にも経済的にもヨーロッパの中心として機能し、数々の博物館や美術館だけでなく、ローマ時代からの遺跡や西洋最古のアーケード商店街やデパートメントストア、他方では現代的な思想のもとで運営されているフランス国立図書館や、今日的な移民問題を反映した多民族融合社会・文化を目のあたりにすることができます。古くからの歴史の積み重ねを観光資源として活用している点では、パリの姉妹都市である京都市と似ているとも言えます。

【現地受入機関】

初級フランス語をすでに習得し、パリを中心にフランスの社会・文学・歴史などについて自身の調査テーマを掘り下げたいと考えている学生向き。学生証と学生用メールアドレスの支給後は、学内無線ＬＡＮの他、パリの公共交通機関と文化施設を割引料金で利用可能。大学図書館には一般図書の他、フランスの歴史・文化・社会に関する資料が豊富（利用には利用料金 1 ヶ月 7 ユーロ、1 セメスター 29 ユーロが別途必要）。

パリ・カトリック大学 Institut de Langue et de Culture Françaises

http://ilcf.us/

所 在 地 ：パリ

授業期間：2 月 11 日～ 5 月 31 日
※授業開始の前週にレベルチェック

宿　　舎：ホームステイ

【フィールドワーク】

期間：2 月 11 日～ 5 月 31 日

テーマ例：

パリで実施できる調査テーマは多岐にわたります。まずは一般的な旅行ガイドでパリについての基本情報を概観した後、以下の資料などを入り口にして自分のテーマを見つけましょう。小倉孝誠、『近代フランスの事件簿―犯罪・文学・社会』（2000 年、淡交社）、鹿島茂、『パリの日本人』（中央公論新社、2015 年）、吉村葉子・宇田川悟、『パリ 20 区物語』（講談社、1999 年）など。

- 18 世紀から 20 世紀を中心とする西洋美術史について（訪問先：ルーブル美術館、オルセー美術館、ポンピドゥー・センターなど）
- パリの都市計画について（訪問先：シテ島、ラ・デファンス地区、ヴェリエール＝ル＝ビュイッソン地区など）
- フランス伝統産業について（訪問先：パリ工芸博物館、建築・文化財博物館、サンタントワーヌ地区など）

【費用】約 108 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 15 万円	約 6.7 万円	約 58 万円	約 3 万円
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 6 万円	約 15 万円	約 4 万円	

※出発前の査証申請に際して €3,075 相当（約 40 万円）の銀行残高証明書が必要。
※ホームステイは、15 週間で €4,350（朝食毎日＋週3回夕食付＋キッチン使用可の場合）。
※現地到着後に移民局登録費用として約 7,500 円が必要。
※フランス国民健康保険（約 30,000 円）への加入が必要。
※ €1=132 円で換算。

モンパルナスタワーから 15 分ほど

パリ・カトリック大学正門

Institut de Langue et de Culture Françaises

フランス（2）

期　間：2019 年 2 月初旬～ 6 月初旬
費　用：約 84 万円

受入機関となる西カトリック大学のキャンパスは、フランスのメーヌ・エ・ロワール県の県庁所在地アンジェの中心地から徒歩 20 分ほどの市街地に位置しています。フランス革命後にフランス西部を代表するカトリック系大学として設置された本大学は、今日では国際交流に力を入れており、アメリカやアジアからの多くの留学生がフレンドリーなスタッフの支援のもとでフランス語やフランス文化を学んでいます。首都のパリから高速鉄道ＴＧＶで1時間半ほどのところにあるアンジェは古代ローマ時代から続く古い街でもあるため、フランスに現存するなかでも最古の城など、中世の歴史を感じさせる町並みを持っています。産業革命以降は農業と商業の街として発展し、ローヌ川を行き来する船舶を中心に産業を発展させました。20 世紀になって船舶を使った運輸業が衰退した後も、近郊では伝統的な酒造業やテキスタイル産業、またジャムやチョコレートなどの小規模ながらもフランスで名の知られた食品産業が営まれています。また、街の中心にある美術館は 18 世紀のロココ時代のフランス絵画を中心とする美術作品を収蔵するほか、他のギャラリーでも 14 世紀以降のタペストリーを中心とする美術作品を見ることができます。

【現地受入機関】

西カトリック大学 Centre International d'Etudes Francaise
http://www.uco.fr/internationaluco/
所 在 地 ：アンジェ
授業期間：2 月 7 日～ 6 月 4 日
※ 2 月 7 日にレベルチェック（2018 年度日程）
参加プログラム：Long Stay Program（15 weeks）
宿　　舎：ホームステイ

初級フランス語から集中的に語学を学びたい学生向き。Ａ1レベルの学生は週 21 時間の必修クラスを受講します。親切な教育スタッフと行き届いた教育施設・カリキュラムのもとで、こまめに実施される習熟度テストによってフランス語学習へのモチベーションを維持しながら、いつでも自分の成長を実感することができます。また、学生や地元の方々との交流イベントや所在地のアンジェを中心としたエクスカーションが多数用意されています。

時間割例（A1 レベル）

	月	火	水	木	金
8:00-8:55					文法
9:00-10:00		文法	文法	文法	会話
10:15-11:10	聞き取り				聞き取り
11:15-12:15	文法	発音	発音	会話	
13:30-14:25		会話		発音	
14:30-15:30	文法	文法		聞き取り	
15:45-16:45					

【フィールドワーク】

期間：2 月初旬～ 6 月初旬（2018 年度日程）

テーマ例：

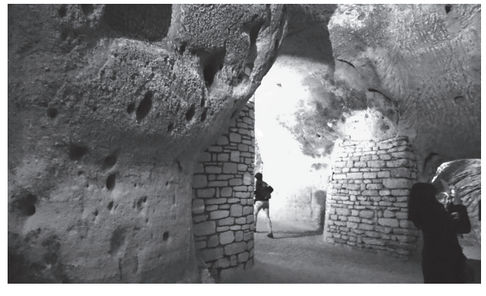
フランスは世界でも有数の農業先進国です。アンジェ近郊でも、多様な農産物をもとにした伝統的な食品加工業だけでなく、フランスの農業を支える種子産業が盛んです。西川芳昭ほか、『奪われる種子・守られる種子―食料・農業を支える生物多様性の未来』（2010 年、創成社）などが参考になります。また、歴史に関心のある学生には、『プランタジネット家の人々』（2000 年、白水社）、柴田三千雄、『フランス史 10 講』（2006 年、岩波書店）がよい入門書になるでしょう。

・フランス中世の城塞巡り（訪問先：アンジェ城塞、ブリザック城、ル・プレシ・ブレ城など）
・フランスの食品産業について（訪問先:アンジュワインのワイナリー、アンジェ市内のチョコレート工場、コアントロー社など）
・フランスの種子産業について（訪問先：サンジェンタ・シーズ社、ロワール・シーズ社など）

【費用】約 84 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 15 万円	約 8.9 万円	約 31 万円	約 3 万円
滞在中	交通費	食　費	その他	
	約 10 万円	約 10 万円	約 6 万円	

※出発前の査証申請に際して €3,075 相当（約 40 万円）の銀行残高証明書が必要。
※ホームステイは、15 週間で €2,280（朝食毎日＋週3回夕食付＋キッチン使用可の場合）。
※現地到着後に移民局登録費用として約 7,500 円が必要。
※フランス国民健康保険（約 30,000 円）への加入が必要。
※ €1=132 円で換算。



ドイツ

期　間：2019 年 5 月初旬～ 8 月末
費　用：約 70 万円

ドイツ・ライプチヒは、同国の西部・ザクセン州に位置します。東西ドイツに分断されていた時代には、東ドイツ（ドイツ民主共和国・ＤＤＲ）に属していました。ライプチヒの人口は、現在約 55 万人であり中規模都市です。同市の中心部には古い街並みが美しく保たれている一方、東ドイツ時代に建てられた建造物も少なからず残っており、時代の移り変わりを皮膚感覚で実感することができます。また、同市は、バッハやメンデルスゾーンなど数多くの音楽家と所縁が深く、ドイツでも有数の「音楽の街」として知られています。

市の中心部に分散した形で立地するライプチヒ大学は、1409 年創立の伝統ある大学であり、ここで学んだ人のリストには、ゲーテ、ニーチェ、ワーグナーをはじめ数多くの大学者や芸術家が含まれます。最近では、アンゲラ・メルケル、ドイツ連邦共和国首相の出身校（物理学専攻）としても知られています。同大学は、現在では、14 の学部と 150 の学科を擁しており、世界中から訪れた 28,000 名に上る学生が学ぶ巨大な総合大学となっています。

また、ライプチヒからは、首都ベルリンやザクセン王国の古都・ドレスデンへ、列車で 1 ～ 1.5 時間の所要で到達できます。これらの周辺都市も、興味深い経験を与えてくれるでしょう。

【現地受入機関】

派遣者は、ライプチヒ大学付属の語学学校でインテンシブ・コースならびに夏期コースを受講することとなります。前者では、週あたり 25 ～ 30 コマの語学の授業が設定され、合計で 200 時間程度の授業を受けることになっています。後者では、語学の授業と様々なイベント（近隣都市への訪問など）が組み合わされる予定です。語学学校には、中近東、欧州、アメリカ大陸、アフリカ大陸、日本を含むアジアなど世界中からの学生が集まっています。

ライプチヒ大学
http://www.interdaf.uni-leipzig.de/
所 在 地 ：ライプチヒ
授業期間：5 月 2 日～ 8 月 4 日（2018 年度日程）
参加プログラム：
Intensive Language Course（5/2 ～ 6/28）
Summer Language Course（7/9 ～ 8/3）
（2018 年度日程）
宿　　舎：寮

【フィールドワーク】

期間：8 月 5 日～ 8 月 27 日（2018 年度日程）

テーマ例：

1. なぜ、どのようにして東西ドイツは平和的な統一を果たせたのか。
2. 統一後の東西格差問題は、いまどうなっているのか。
3. シリア難民の流入が続く中、どのような問題が起きているのか。その他、移民への姿勢をめぐる国民間での意見対立について。
4. ドイツの脱原発政策はどのようにして可能となったのか。どのように進行しているのか。
5. ドイツでの日本文化の受容はどうなっているのか。

【費用】約 70 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	寮　費	査証申請費
	約 20 万円	約 6.7 万円	約 12 万円	出発前は不要
滞在中	交通費	食　費	宿泊費	その他
	約 5 万円	約 16 万円	約 7 万円	約 3 万円

※寮費は €870。
※渡独後に在留許可申請のため残高証明が必要。
※ €1=130 円で換算。

スペイン

期　間：2019 年 5 月 1 日～7 月 29 日	
費　用：約 61 万円	

スペインはイベリア半島の 80％を占め、北はピレネー山脈を境にフランスと、西はポルトガルと接し、南はジブラルタル海峡越しにアフリカが見えます。

グラナダはスペインの南、アンダルシア地方に位置する人口約 25 万人の都市で、うち約 5 万人（20％）が大学生です。学生の町なので物価は概して安く、治安はスペイン国内の他都市と比較するととてもよいと言えます。特に、バル（Bar －朝食・昼食・夕食にも利用、飲んで食べられる店）で飲み物を頼むとサービスでタパス（小さめの皿に盛られた料理）が付いてくるため食費を安くおさえられ、シエラネバダ山脈の雪解け水を利用しているため水道の水がそのまま飲めます。

市中にはスペイン屈指の世界遺産であるアルハンブラ宮殿があります。11 世紀のレコンキスタ（キリスト教による国土回復運動）の際、イスラム勢力の最後の砦となった場所です。白い家が軒を連ねるアルバイシン地区にあるサン・ニコラス展望所からは、アルハンブラ宮殿とシエラ・ネバダ山脈の景色を満喫できます。

その他にも、大聖堂や王室礼拝堂など見どころも多く、世界中から観光客が集う町でもあります。陶磁器、寄せ木細工などの伝統工芸でも有名です。

【現地受入機関】

グラナダ大学現代言語センター
http://www.clm-granada.com/index-en.html
所 在 地 ：グラナダ
授業期間：5 月 2 日～7 月 2 日
宿　　舎：ホームステイ

クラスは最大でも 15 名。初日にプレイスメントテストがあり、初学者から国家資格レベルまでスペイン語力別にクラスが編成されます。80％はアメリカ合衆国からの学生でアジアからの留学生は多くありません。

自習スペース、パソコンルーム、Wi-Fi 環境、図書室があり、グラナダ大学の図書館も利用できます。

セビージャ・トレドなどへの泊りがけのトリップや、コルドバなどへの日帰りのトリップ、市内散策、スポーツアクティビティなどが語学学校の教員の案内付で行なわれています。24 時間トラブル対応窓口があります。

【フィールドワーク】

期間：7 月 3 日～ 7 月 28 日

スペインの都市の特徴や文化、社会のことを読み解くには、歴史的な知識が不可欠です。入り乱れる民族、宗教、大きく書き換えられる文化。岩根圀和『物語 スペインの歴史　海洋帝国の黄金時代』中公新書（2002）をさらっと読むと、スペインの歴史をざっくりと捉えることができます。また、スペインの多様性を知りつつ自分の関心事を見定めていくには、坂東省次『現代スペインを知るための 60 章』明石書店（2013）なども参考になります。

テーマ例：

・イスラム文化とキリスト教文化の共存について（訪問先：アルハンブラ宮殿など）

・スペインの食文化について（訪問先：町なかのバル、郊外の畑など）

・スペインにおける日本のサブカルチャーについて（訪問先 ：「グラナダの日本」を主催しているグループなど）

・多様な建築様式と多様な歴史・文化について（訪問先：アルバイシン、大聖堂など）

・伝統工芸の技と紋様（グラナダ陶器、寄せ木細工など）（訪問先：寄せ木細工工房など）

【費用】約 61 万円

出発前	航空運賃	海外旅行保険料	ホームステイ費	査証申請費
	約 20 万円	約 4.9 万円	約 14 万円	不要
滞在中	交通費	食　費	宿泊費	その他
	約 3 万円	約 6 万円	約 10 万円	約 3 万円

※ €1 ＝ 122 円で換算。

2-4. 奨学金制度（海外留学型）

1. 京都精華大学人文学部フィールド・プログラム（海外）奨学金

【給付】／担当窓口：学生グループ

人文学部フィールド・プログラム（海外）への参加者を対象とした給付型奨学金（返済不要）です。給付金額は 10 万円。2018 年度は 29 名への給付を予定しています。選考を通じて採用者を決定します。

2. JASSO（日本学生支援機構）「トビタテ!留学Japan日本代表プログラム」

【給付】／担当窓口：学生グループ

海外の大学への留学（実践活動を伴うことが必須条件）や、企業でのインターンシップなど学生が主体的に立案する様々な形の留学を対象とする給付型奨学金制度（返済不要）です。大学が取りまとめて申請を行ないますが、選考は JASSO が行います。採用決定者には月額（6 ～ 16 万円）と渡航費（15 万円～ 25 万円）が給付されます。

※採用者は東京における事前研修に参加する必要があります。

※募集は年 2 回（3 月と 10 月）ですが、3 月末までに開始するプログラムへの参加希望者は前年の 3 月に応募する必要があるため、応募ができません。

3. JASSO（日本学生支援機構）「第一種・第二種奨学金（国内）」

【貸与】／担当窓口：学生グループ

留学を対象とした奨学金ではありませんが、必要な金額だけ借りて貸与を中止することや、在学中に返済を開始することも可能ですので、計画的に利用することで留学資金の準備のために活用することも可能です。家計基準等の条件があるため、詳しくは下記のいずれかの学内説明会へ参加してご確認ください。

①申請時期：4 月（第二種は 9 月に追加募集が行われる可能性あり）

②貸与月額

第一種（無利子）	自宅	2 万円、3 万円、4 万円、5.4 万円
	自宅外	2 万円、3 万円、4 万円、5 万円、6.4 万円
第二種（有利子）		2 ～ 12 万円（1 万円単位で設定可能）

③学内説明会

4 月 4 日（水）10:40 ～ 11:40（本館 H303）

【JASSO 第一種・第二種奨学金（国内）の貸与を受けている場合】

国内で第一種または第二種奨学金の貸与を受けている場合､「留学奨学金継続願」を提出することにより、留学中も引き続き奨学金の貸与を継続することができます。（JASSO による継続可否の審査があります。）

2-5. 京都精華大学海外プログラム等における安全管理に関する規則

1. 本学における海外プログラムの種類

この規則でいう「海外プログラム等」とは京都精華大学の正規カリキュラムに含まれ、本学による単位認定の対象となる海外プログラムや交換留学等のことをいう。

2. 安全管理に関する自己責任の原則

海外におけるプログラムでは、学内の活動とは異なり、一般的に危険や病気、事故等に遭遇する可能性が高い。それらから自らの安全を守るために、各自が最大限の対策を講じる必要があり、万が一、そのような事態に遭遇した際には、できる限り被害を最小限にとどめ、すみやかに危険から離れることが求められる。

本学では、プログラムの準備と現地での実施期間中、学生の安全を守るための配慮と方策、そしてそれに基づく指導を可能な限り行うが、海外プログラム等に参加する学生は各自が主体的に自覚と責任を持ち、適切な判断と行動をとらなければならない。

ついては、本学の海外プログラム等に参加する学生は、以下に記された条件を遵守することが必要である。

3. 本学海外プログラム等参加にあたっての規則

【プログラム開始前】

(i) 利用する交通機関と便名・日程表・宿泊施設（名前・場所・連絡方法）・現地受入れ担当者・機関（カウンターパート）とその連絡先などが記載された「渡航･滞在計画表」（国際交流チームより配布）を科目担当者（あるいは指導教員）および国際交流チームに提出すること。

(ii) 上記 (i) の内容を保護者等へ説明し、承諾を得ること。

(iii) 渡航地域に関しての現地情報（治安・保健衛生・交通・通信等の事情）を得ること。「外務省・海外渡航関連情報」の「国・地域別情報」において、「渡航の是非を検討してください」の表記およびそれ以上のレベルが表示されている国・地域への渡航は原則として禁止する。

(iv) 出発以前に必要十分な海外旅行保険に加入していること。（現地の諸事情を勘案し、保険のタイプを選ばなければならないが、少なくとも疾病・傷害・死亡・救援者派遣・賠償責任費用等は十分に保障されているものでなければならない。緊急移送費も含まれていることが望ましい。）学生は保険加入後、指定の期日までにその証書のコピーを国際交流チームに提出しなければならない。

(iv) 学生はプログラムの出発に先立ち、自らの健康状態を十分に把握し、不安や医師の反対がある場合、出発をみあわせなければならない。また、渡航先における伝染病等の感染を回避するため、必要に応じて予防接種を受ける、あるいは予防内服などを行うなど、適切な予防措置を講じなければならない。

（v） 学生は医師の治療や投薬を受けている場合、または心身の健康状態に留意すべきことがある場合、出発前に必ず科目担当者（あるいは指導教員）または国際交流チームにその内容を伝えなければならない。場合によっては医師による健康診断書の提出を求めることもある。

（vi）京都精華大学は上記の事項を確認し、安全管理上問題があると判断した場合は、学生の研究計画等プログラムの変更、場合によっては渡航中止、帰国等を指示することがある。

【プログラム期間中】

（i）同一国に3か月以上滞在する場合、最寄りの在外日本大使館または領事館等へ「在留届」を提出しなければならない。

（ii）プログラム期間中、学生は定期的に大学の科目担当者および国際交流チームと連絡をとり、現地における住所・連絡先の変更があった場合はすみやかに報告しなければならない。連絡の頻度及びその方法は、各プログラムの科目担当者（あるいは指導教員）の指示に従うものとする。またプログラム中他所へ移動する場合は、事前にその旅行計画と緊急時の連絡先を科目担当者及び国際交流チームへ伝えなければならない。

（iii）プログラム期間中、学生は以下のことを守らなければならない。

①プログラム実施に関する京都精華大学（学長・学部長・科目担当者など）の決定や指示には必ず従うこと。

②滞在国・地域の法律・法規を遵守すること。

③公序良俗に反する行為をしないこと。

④プログラム期間中は受入れ先大学等の規則を遵守し、迷惑をかけぬようにすること。

⑤自動車・自動二輪車の運転は原則として行わないこと。但し、現地にて他の公共交通手段の利用が著しく困難な場合、科目担当者の判断の下に、国際展開委員会の許可を得ることで自動車・自動二輪車の運転を行うことができる。

（iv）以下の場合にプログラム途中での帰国、プログラムの変更または中止を命じる場合がある。

①学生が上記プログラム期間中（i）～（iii）に記された事項を守らず、あるいは本人の素行が著しく不良であると京都精華大学が判断する場合。

②病気、事故、事件など学生本人の故意でない、あるいは予測し得ない緊急事態などの安全管理上の問題によって、プログラムの続行が不可能であると京都精華大学が判断する場合。

（v）以下の場合に学生が被る学籍上、教務上、あるいは金銭上等の不利益に関して、学生は京都精華大学にその責任を問うことはできない。

①プログラム途中での帰国を命じる場合。

②学生本人の故意または不注意あるいは予測し得ない事態により事故や災害、疾病等が発生した場合。

③緊急事態等の発生によって、京都精華大学がプログラムの変更あるいは中止を決定、指示した場合。

【プログラム終了後】

（i）プログラム終了後の滞在延長や旅行に関しては、すべて学生個人の責任のもとに行われるものとし、京都精華大学は一切の責任を負わない。

（ii）プログラム終了後であっても、学生の滞在延長や旅行に関して、帰国までの滞在先、連絡先を科目担当者および国際交流チームに必ず連絡すること。

（iii）帰国をした学生は1週間以内に科目担当者および国際交流チームに帰国の報告をしなければならない。

誓約書の提出

この規則の趣旨を理解した上で、プログラム参加学生本人ならびに保護者等は別紙「誓約書」を指定の期日までに提出しなければならない。（提出先：国際交流チーム）

2015年7月 改訂　国際展開委員会

2-6. 緊急時の連絡先

【危機管理会社による 24 時間日本語緊急電話サポート】

現地において皆さんが緊急時に 24 時間電話で日本語によるサポートを受けることができるように、留学生危機管理サービス（OSSMA）に大学が加入しています。OSSMA の電話番号は派遣先によって異なりますので、オリエンテーションにおいて資料を配布します。

【学生グループ】

（TEL）　＋８１－７５－７０２－５１９９
（FAX）　＋８１－７５－７０２－５３９０
（Email）kokusai @ kyoto-seika.ac.jp

【上記に連絡がつかない場合】

＋８１－７５－７２２－３７２９（警備棟・24 時間）
警備棟から連絡網を通して各責任者へ連絡が回ります。

3. 国内交換留学型

3-1. 履修の流れ（国内交換留学型）

2018 年

【前期】

4 月 ..... フィールド・プログラム全体説明会・履修相談

6 月 ..... 国内交換留学型説明会

6 月末..... 参加プログラム仮登録配布（地域学）・個別面談開始

7 月中旬..... 参加プログラム仮登録用紙提出

9 月中旬 ..... 学習準備書提出・面接

9 月末.....「現場学」クラス発表

【後期】

10 月.....「現場学」履修開始

11 月 ..... 現地受入先機関への申請手続開始

1 月末.....「フィールド・プログラム計画書」報告会

3 月 ..... 3 年次進級判定

2019 年

【前期】

4 月 ..... プログラム開始

5 月 ..... 中間報告

7 月 ..... プログラム修了・仮レポート提出

9 月 .....「専門演習3」（集中講義） 履修開始

9 月末.....「フィールド・プログラム最終報告書」提出（専門演習 3）

【後期】

11 月初旬..... フィールド・プログラム報告展

1 月末..... 交通費補助申請締切

3-2. 科目評価の構成（国内交換留学型）

現場学	毎回の授業への出席状況や課題・発表への取り組みに加え、授業内で作成するフィールド・プログラム計画書の内容、1 月末に行われるフィールド・プログラム計画書報告会での発表内容を評価します。
フィールドスタディーズ 1	現地の受入機関で受講した科目の成績評価を、「フィールドスタディーズ 1 ～ 4」の 4 科目 x 2 ＝ 8 単位分に読み替えます。
フィールドスタディーズ 2	
フィールドスタディーズ 3	
フィールドスタディーズ 4	
フィールドスタディーズ 5	フィールド・プログラム計画書で設定したフィールドワークが適切に実施されているかを日報・週報の内容も含めて評価します。
フィールドスタディーズ 6	11 月初旬に予定されているフィールド・プログラム報告展で展示する報告パネル等の作成への取り組み、また報告展での作業内容（設営、報告展当日の案内・説明係の当番、撤収等）を評価します。
専門演習 3	3 年次前期の日報あるいは週報がスケジュール通りに提出されているか、またフィールド・プログラム最終報告書に1年次（場合によっては入学前）から取り組んだフィールド・プログラムの内容が十分に盛り込まれているかを評価します。

3-3. 派遣先一覧（国内交換留学型）

県・地域	学校名	担　当	期　間	費　用	定　員
北海道	札幌大学	岩本・矢野	4 月～ 8 月	50 万円	5 名
沖縄	沖縄大学	末次	4 月 1 日～8月初旬	50 万円	5 名

北海道

期間：2019 年 4 月～ 8 月
費用：約 50 万円
定員：5 名

北海道は 1869 年に明治政府により改称されるまで蝦夷地とよばれており、近世期においては、松前地を除いて幕藩制支配の及ばない異域として位置づけられていました。文化的には、12 世紀から 13 世紀にかけて擦文文化が終わり、新たにアイヌ文化が形成されました。これが近世アイヌ文化へと発展していきます。しかし次第に道南の和人権力が強くなり、アイヌ民族を抑圧し始めます。これは、1457 年コシャマインの戦、1669 年のシャクシャインの戦などアイヌの蜂起をたびたび引き起こし、1779 年に東蝦夷地が幕府直轄となるにおよびアイヌ民族は内国民として位置づけられ、同化政策の対象となりました。近代に入ると明治政府は 1869 年に開拓使を置き、1872 年には全島をその管轄とします。1886 年には北海道庁を設置し、戦後まで地方制度は適用されませんでした。敗戦後は、1950 年に北海道開発庁が設置され、工業開発に重点をおいて総合開発計画が政府によって推進されます。その後は石炭産業の斜陽化や農村の過疎化が進行し、現在では産業構造も大きく変化しつつあります。

【現地受入機関】

札幌大学
https://www.sapporo-u.ac.jp/
期　間：4 月 1 日～ 7 月 31 日
宿　舎：市内賃貸アパート等

提携先の札幌大学は、豊かな自然と充実した都市機能が共存する国際都市・札幌市豊平区の、藻岩山を望むゆるやかな丘陵地にあります。約 3,000 名の学生が、 1学群（地域共創学群）13 専攻に分かれて、緑豊かなキャンパスで学んでいます。最も特色があるのは歴史文化専攻で、アイヌ語やアイヌ文化、北方史を専門に学ぶことができます。他にも、地域創生、ロシア語、スポーツ文化などの専攻があります。

時間割（予定）

	月	火	水	木	金
9:30-10:30		アイヌ語 I			
10:50-11:50		アイヌ語 I			
12:50-13:50		アイヌの歴史	北海道地域文化論	アイヌ文化論	
14:10-15:10	日本北方史			ゼミナール	
15:30-16:30					
16:50-17:50					

【フィールドワーク】

期間：8 月 1 日～ 8 月 31 日（2018 年度日程）

最初に想定されるのは、北海道の先住民であるアイヌ民族に関する研究でしょう。札幌大学ではアイヌの文化や歴史だけでなくアイヌ語も学ぶことができますので、より理解が深まると考えられます。北方史についても専門に学ぶことができますので、北海道独自の文化について知ることもできます。また、地の利を活かして、農業や畜産、食文化や観光、ウィンター・スポーツについても研究することができるでしょう。

テーマ例：

- アイヌ民族について（訪問先：白老アイヌ民族博物館、北海道博物館など）
- 北方史について（訪問先：旧北海道庁、北海道開拓の村など）
- スポーツについて（訪問先：札幌ウィンタースポーツミュージアム、札幌ドームなど）
- 北海道の農業経営について
- 畜産の経営について
- 食文化と地域興しについて
- 観光戦略について

【費用】約 50 万円

- 航 空 運 賃：約 50,000 円
- アパート代：約 30,000 円 / 月
- 生　活　費：約 50,000 円 / 月
- 現地調査代：約 50,000 円

沖縄

期間：2019 年 4 月 1 日～ 8 月初旬
費用：約 50 万円
定員：5 名

沖縄県は、今からおよそ 150 年前まで、明治時代以前の 450 年ほどは、一人の王が統治する、琉球という国でした。沖縄本島南部にある都首里には、首里城があり、そこには独自の王が居り、宮廷が存在しました。国は、王を中心とする独自の階級組織により成り立っていました。国土は、日本の最西端を含む八重山諸島から、現在は鹿児県である奄美群島にまで及んでいました。しかし、ここで話される言葉は、言語学的には日本語から枝分かれしたものであり、本州を中心に話される本土方言に対し琉球方言と呼ばれます。また、宮廷文化として特徴的なのは、王を守る独自の神女組織が存在したことで、聞得大君（きこゑおおきみ）と呼ばれる最高位の神女を中心に、村々のノロと呼ばれる神女までの組織が存在したことです。その名残は、現在の集落でも見ることができます。しかし、1879（明治 12）年に沖縄県になってからは、このような歴史的な独自性が消え、日本国の一地域として歩みます。そのなか、第二次世界大戦では、沖縄は日本列島の中で唯一の地上戦を体験し、当時の沖縄本島の人口の3分の1の 20 万人以上の人命が失われました。その後、1972 年に復帰するまで、アメリカの統治下に入っており、復帰後も米軍は残り、日本国に駐留する全米軍の基地うち、70％以上が沖縄本島を中心に存在するという状況が続き、沖縄の大きな問題となっています。

【現地受入機関】

沖縄大学
https://www.okinawa-u.ac.jp/
所在地：沖縄県那覇市
期　間：4 月 1 日～ 8 月 10 日
宿　舎：市内賃貸アパート等

沖縄大学には、各学部の共通科目として「沖縄関係科目」があり、その中から４科目８単位以上を履修すること。これは、沖縄という地域を前提とした科目群であり、さまざまな分野に及んでいます。また、科目としての単位を履修するだけではなく、これとは別に、本人が希望すれば、沖縄大学の教員で、受け入れを申し出た複数の学部の教員のゼミに参加することもできます。大学の図書館には沖縄、琉球に関するまとまった資料が所蔵されており、利用することができます。さらに、学内のサークルに所属し、そこで活動することで、これをフィールドワークのテーマとすることもできます。

時間割（例）

	月	火	水	木	金
1 講時	沖縄関係科目				
2 講時	沖縄関係科目	沖縄関係科目			
昼休			三線教室		三線サークル
3 講時		沖縄関係科目	三線教室		三線サークル
4 講時					
5 講時					

【フィールドワーク】

期間：4 月 1 日～ 8 月 10 日（2018 年度日程）

概要に記したように、かつて独立した国家であった沖縄には、そのことを前提に、本土とは異なる独自の文化が数多く存在します。それは、民衆の生活に即した民俗といったレベルから、王府の士族のものにまで及び、これらは面白いテーマとなります。また、近現代の社会、例えば基地問題も、テーマとなりえます。さらに、日本列島の中で、亜熱帯の気候に属しているため、自然環境も独自で豊かであり、これもテーマになり得ます。このように、フィールドワークのテーマは、多方面に存在します。

テーマ例：

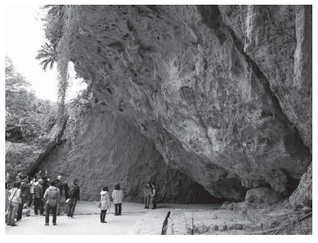
- 琉球国の衣服の歴史を知る（訪問先：首里城、沖縄県立博物館、染色工房、衣服店。など）
- 沖縄の聖地を探る（訪問先：首里城、斎場御嶽、久高島、各地のウタキ、など）
- 琉球舞踊を現地で学ぶ（訪問先：国立劇場おきなわ、沖縄県立芸術大学、各地の琉球舞踊研究所、など）

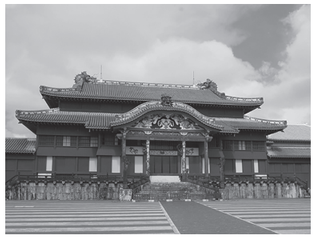
【費用】約 50 万円

- 出発前：航空券：片道約 20,000 円
- アパート代：1 ヶ月約 50,000 円（他に入会金、退出金がかかります。）
- 現地滞在中：食費：1 日約 1,000 円、交通費：バス代等 1 日約 500 円
- 生 活 費：約 35,000 円 / 月
- 現地調査代：約 50,000 円

【担当教員との通信手段】

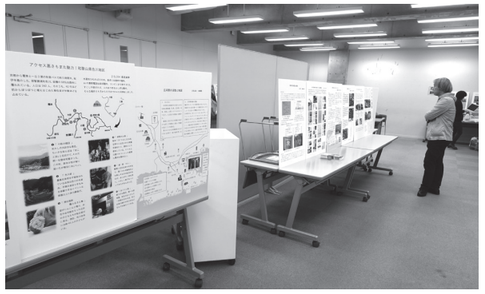
メール、LINE、Skype、ブログ。
※一昨年度に参加した学生のブログは、下記で読めます。
→ http://kyoto-seika.2016okinawaproject.blogspot.jp
あるいは、「関西娘の沖縄生活」を Google で検索すれば、トップヒットします。
これは、スマホで検索することができます。右上のＱＲコードをお読み下さい。学生の生の姿が記録されています。ぜひ、参考にしてください。





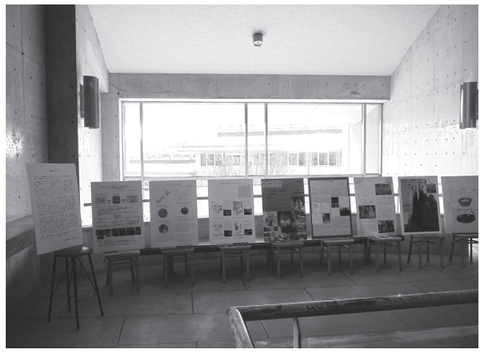
2017 年度「フィールドプログラム報告展」

2017 年 11 月「木野祭」と同時開催



2017 年度の木野祭の開催とあわせ、各自がフィールドワークで取り組んだ内容をわかりやすく紹介するパネルを作成し、関連する物品や資料などとあわせて展示しました。人文学部の学生だけでなく、他学部の学生・教職員や、学生の家族などの学外からの参加者が見学に訪れました。学生自身で設営から開催中の常駐、撤収までを分担して行います。

2018 年 2 月「京都精華大学祭（卒展）」と同時開催



2017 年度の京都精華大学際（卒展）の開催とあわせ、とくに海外フィールドプログラムに参加した学生の紹介パネルの展示と、現地で撮影した写真展とスライドショーを実施しました。

4. 国内テーマ型

4-1. 履修の流れ（国内テーマ型）

2018 年

【前期】

4 月 ..... フィールド・プログラム全体説明会・履修相談

6 月末..... 参加プログラム仮登録配布（地域学）・個別面談開始

7 月中旬..... 参加プログラム仮登録用紙提出

9 月末.....「現場学」クラス発表

【後期】

10 月.....「現場学」履修開始

1 月末.....「フィールド・プログラム計画書」報告会

3 月 ..... 3 年次進級判定

2019 年

【前期】

4 月 ..... プログラム開始

5 月 ..... 中間報告（テーマにより回数・時期は異なります）

7 月 ..... プログラム修了・仮レポート提出

9 月 .....「専門演習3」（集中講義）履修開始

9 月末.....「フィールド・プログラム最終報告書」提出（専門演習 3）

【後期】

11 月初旬..... フィールド・プログラム報告展

1 月末..... 交通費補助申請締切

4-2. 科目評価の構成（国内テーマ型）

現場学	毎回の授業への出席状況や課題・発表への取り組みに加え、授業内で作成するフィールド・プログラム計画書の内容、1 月末に行われるフィールド・プログラム計画書報告会での発表内容を評価します。
フィールドスタディーズ 1	フィールド・プログラム計画書で設定したフィールドワークが適切に実施されているかを評価し、「フィールドスタディーズ 1 ～ 5」の 5 科目× 2 ＝ 10 単位分の成績に割り当てます。
フィールドスタディーズ 2	
フィールドスタディーズ 3	
フィールドスタディーズ 4	
フィールドスタディーズ 5	
フィールドスタディーズ 6	11 月初旬に予定されているフィールド・プログラム報告展で展示する報告パネル等の作成への取り組み、また報告展での作業内容（設営、報告展当日の案内・説明係の当番、撤収等）を評価します。
専門演習 3	3 年次前期の日報あるいは週報がスケジュール通りに提出されているか、またフィールド・プログラム最終報告書に1年次（場合によっては入学前）から取り組んだフィールド・プログラムの内容が十分に盛り込まれているかを評価します。

4-3. テーマ一覧

	タイトル	担　当	費　用	定　員
テーマ 1	異界を歩き伝説を語る ～説話の採録と怪談朗読台本の創作	堤	2 ～ 3 万円	5 名
テーマ 2	岩倉地域の歴史調査	岩本・齊藤	交通費（若干）	5 名
テーマ 3	京都市動物園の「京都の森」エリアの維持管理と運営	恩地	京都市動物園までの交通費	5 名
テーマ 4	文学散歩研究	加美・西野	25,000 円	10 名
テーマ 5	古都の魅力を楽しむ・発信する ～文化財の活用・公開実践～	惠阪・柳沢	市内交通費など	10 名
テーマ 6	企業研究 ～社会的課題を解決する企業で調査・実践する	服部	調査地との往復交通費	5 名
テーマ 7	京都の山々 ーその自然と文化ー	小椋・山名	0 ～ 5 万円	10 名
テーマ 8	郷土伝統芸能から日本文化を考える	三上	内容による	5 名

テーマ１

異界を歩き伝説を語る
～説話の採録と怪談朗読台本の創作

担当教員：堤 邦彦
想定費用：２～３万円
定　　員：５名

京都の町角には妖怪の物語や不思議な言い伝え、歴史上の人物にまつわる伝説が散在しています。「鵺（ヌエ）の噂」（頼政塚）、「九尾の狐と殺生石の地蔵」（真如堂）、「幽霊子育飴」（東山六道の辻）といった現存する伝承碑を対象として、説話文学、名所記、寺社縁起、絵巻などの古文献を読み比べながら、それらの怪談史跡が生まれた背景をさぐります。また、現代の文芸作品や映像に描かれた「妖しい場所」の説話史的な意味を考えることもテーマのひとつとなります。このクラスの第1の目標は、異界伝説の歴史と文化背景に焦点をあてるところにあります。さらにまた、京都の異界伝説と同じ話型をもつ日本各地の怪異・妖怪伝承へと研究の視点をひろげ、より広範囲の伝承マップを作成します。

一方、集められた伝説のかずかずには、その時代、その地域の風土や民間信仰、怪異の精神史などが散在しています。まさに「ふるさと怪談」と呼ぶにふさわしい説話群を、ただ集めるばかりではなく、古い怪談を記録し、保存し、文化遺産として未来に残していくためには、現代に適合した表現方法で再生させる必要があります。そのような考え方から第２の目標として、集めた話をもとに、オリジナルな朗読用の台本を創作し、「ふるさと怪談」の朗読公演の実践をめざします。現代語で語る異界の物語をとおして、日本の怪談文化を広く社会に発信します。

限られた半期のあいだなので、ひとまず第1の目標（話の収集と記録、マップ作り）を必修とし、第２の目標（台本創作と公演実践）はオプションとします。

【協力団体】

①「百物語の館」（http://obakejb.web.fc2.com/top.html）
古典怪談を中心に日本全国の怪談、口碑を研究、蒐集し、オリジナル台本による怪談朗読公演を行う団体。本部は四条高辻燈籠町 589-1、人間解決社・蛇庵内。代表・堤邦彦。

②「妖怪藝術団体　百妖箱」（http://www.kyotohyakki.com/）
妖怪グッズの製作とアート・フリマ「モノノケ市」の開催および嵐電「妖怪電車」、一条通り百鬼夜行仮装行列の主催団体。本部は嵯峨芸術大学内、代表・河野隼也。

いずれも「不気味で、かわいく、美しくて、怖い」団体。

【プログラム期間中の流れ】

４～７月は基本的に、文献調査→実地フィールド・ワーク→マップ作り→（台本化）のながれとなります。

４月：京都市内の異界伝説に関する文献探しと研究方法を学びます（伝承研究、江戸怪談史、芸能史、寺社縁起、近代・現代の邦画怪談や京都を舞台とした文芸作品などの基礎文献ガイダンス）。

５月：京都市内および周辺の伝説、怪談、寺社由来などを集め、伝承地のフィールド調査を行います。

６月：日本各地の類話伝承地をフィールド・ワーク。

７月：まとめおよびガイドブックやマップ作成、および台本化。

８月：余裕があれば怪談朗読公演。

【クラスの報告会】

毎月末に報告会を行い、必要に応じて合同見学会、映像鑑賞、祭礼探訪を行います。

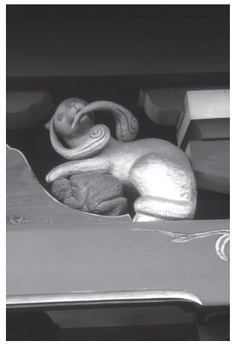
【個々人で取り組むテーマの例】

① 京都の伝説、妖怪話を聞き書きし「不思議探訪ガイドブック」にまとめます。
② 日本各地の狐伝承を採集して、「イナリ怪談マップ」を作成します。
③ 怪談朗読用台本「平安奇談集」を創作します。
④ 洛北異界めぐりの写真集と妖怪図鑑を編集し、小冊子を刊行します。
⑤ 怪談による町おこしの可能性と課題～公演実践をふまえて～。

【想定される費用内訳】

A）京都市内のみの活動の場合
・見学交通費・入館料（10,000 円程度）

B）地方の伝説・昔話採取のフィールド・ワークを行う場合
・上記にＦＷ地までの交通・宿泊費を加えた額



テーマ２

岩倉地域の歴史調査

担当教員：岩本 真一・齊藤 紘子
想定費用：交通費（若干）
定　　員：5 名

京都精華大学の周辺には、岩倉、中村、長谷、花園、幡枝、木野など、江戸時代から続く村や集落のまとまりが残っています。しかし、ここ数十年の急激な宅地化によって、地域の景観や生活様式・産業などは著しく変貌を遂げ、開発以前の記憶も失われつつあります。この「岩倉地域の歴史調査」プログラムでは、本学が位置する木野町および岩倉地域をフィールドとして、地域の現状に向き合いつつ、生活や年中行事の変化などを明らかにし、その内容を歴史的な視点から記録していこうと考えています。

調査の中心は、地域の方々に生活の体験を聞くオーラル・ヒストリー（聞き書き）です。文字史料としては残されにくい生活の経験・記憶を具体的に聞き取り、その記録を地域の「歴史資料」として、未来へ残していくことが目的です。また、実際に地域を歩くなかで、様々な歴史的痕跡（遺跡、石造物、景観、生活道具など）や文献を用いた研究にも取り組み、歴史や民俗学における多様な調査方法も学びます。

歴史や民俗に興味のある人、祭礼などの伝統行事や地域のコミュニティについて歴史的に考えてみたい人には、とてもよい経験になるでしょう。

【協力団体】

木野町自治会、京都市歴史資料館など

【プログラム期間中の流れ】

4月：①岩倉地域の巡見

現在の地域の様子を観察し、地理情報を頭に入れる。

②聞き取り調査の準備

テーマの絞り込み、質問項目の整理、テーマに即した事前研究など。

5月：①聞き取り調査の実施（3 回程度）

木野町自治会館もしくは話者のお宅に訪問して行う。

聞き取り内容は録音しておく。

②録音データを文字に起こし、内容を正確に整理する。

6月：①聞き取り内容の検討

話者の立場や過去と現在の時間差などを考慮して検討する。

②補充調査を実施する

補充聞き取り、もしくは文献や史料によって研究を深めてもよい。

7月：報告書作成・展示準備

※古文書・石造物の調査や現地巡見、他の受講生が取り組む聞き取りなどにも積極的に参加して下さい。

【個々人で取り組むテーマの例】

・農家の暮らしの変化（昔の農業や、地域での山・川・溜池・牛馬などの利用について聞き取り、開発が進む中で生じた暮らしの変化を明らかにする）。

・地域の祭礼について（岩倉地域にはそれぞれの村ごとに氏神があり、現在でも伝統的な祭礼行事が続けられている。その運営のあり方や変化などを聞くことで、祭礼と地域の関係を歴史的に明らかにすることができる）。

・年中行事の変遷や比較（自治会・氏子組織や各家々では、正月・お盆・地蔵盆・冠婚葬祭などの様々な伝統行事が行われてきた。1 年を通じてどのような行事があり、現在どれくらい続いているのかを考えてもよいし、特定の行事について、家や地区ごとの違いを比較するのもよい）。

・戦中・戦後の学校や自治会、人びとの暮らしについて（戦中・戦後の暮らしを体験してきた話者の方に生活の様子を聞く。聞き取りの記録は、近現代史の歴史資料としても重要）。

・地域に残る民具・歴史資料の調査と保存（地域の家々に残る民具や史料などから、生活の変化を調査する。聞き取りや実測、撮影、保全作業なども行う）。

★これ以外にも多様なテーマが考えられます。2 年次後期「現場学」の授業で、地域についての理解を深めつつ、各自のテーマを見つけてください。

【想定される費用内訳】

調査地や京都歴史資料館への往復交通費（必要な人のみ）。

旧鞍馬街道と幡枝の集落

「土器師」の村として知られた木野

江戸時代の『都名所図会』北岩倉大雲寺

木野町愛宕神社の祭礼「烏帽子着」

木野町での聞き取り調査

巡見の様子（古代岩倉の瓦窯遺跡）

テーマ３

京都市動物園の「京都の森」エリアの維持管理と運営

担当教員：恩地 典雄
想定費用：動物園までの交通費
定　　員：5名

京都市動物園の「京都の森」エリアの維持管理と運営をにないます。おもに４回生が卒業プロジェクトにすでに着手しており、それを側面援助、補助を行う中で、そこで実施されるさまざまな環境教育プログラム（アメリカザリガニつり（外来種の排除、種の多様性の保護）や象のうんちから葉書づくり、サウンドスケープ調査等 20 に余るワークショップ）に参加し、参加者のアンケートを実施、考察します。あらたなワークショップの開発もおこないます。

【協力団体】

京都市文化市民局京都市動物園、生き物・学び・研究センター

URL　http://www5.city.kyoto.jp/zoo/crew

【プログラム期間中の流れ】

４月：ガイダンス、施設内の案内、動物園内のルールの取得、服装の準備（長靴、作業着等）

５月：田植え等の準備、耕耘機の練習、動植物のサンプリング法の取得

６月：ワークショップの予備練習

７月：データ（ワークショップのアンケート集計）整理について学習

クラス内報告会日程（予定）

未定７月中旬

【個々人で取り組むテーマの例】

・ワークショップの感想について（どう工夫すれば参加者がよろこび，主催者の意図通りの成果が得られるのか）。

・人は何故動物園にくるのか理由について（ワークショップの文章づくり）。

・アメリカザリガニについて（外来種をいかに駆除するのか）。

【想定される費用内訳】

動物園までの交通費。

テーマ４
文学散歩研究

担当教員：加美甲多・西野厚志
想定費用：約 25,000 円
（内訳は下記参照）
定　　員：10 名

「鞍馬行電車の順序で云ふと、出町から四つ目が修学院、次が山端、次が八幡前、次が岩倉」……。谷崎潤一郎の小説「夢の浮橋」の一節です。小説の舞台となったのが出町柳駅からほど近い下賀茂神社そばに現存する旧谷崎邸「後の潺湲亭」（現・石村亭）で、ここから数々の名作が生まれました。現在の路線図で小説の記述のあとを続けると、岩倉の次が木野、そして、その次が「京都精華大学前」駅。毎日叡山線を利用して通う学生は、知らず知らずに小説の世界に迷い込んでいるのかもしれません。

ほかにも、本学周辺には鞍馬天狗や源頼光と鬼童丸の物語、「源氏物語」で光源氏が紫の上とはじめて出会う運命の地、「平家物語」の大原御幸の条といった、伝承説話や文学作品の舞台が数多く存在します。例えば、和泉式部が切ない心情を込めて「物思へば沢の蛍もわが身よりあくがれいづる魂かとぞ見る」という恋の歌を詠み、また能「鉄輪」のように「丑の刻参り」を行った貴船神社、絶世の美女とされた小野小町の老衰像がまつられた普陀落寺、村上春樹「ノルウェーの森」のヒロインが最期を迎えた場所など。

本プログラムでは、文学作品や作者にゆかりのあるフィールドを実際に訪れます。また、各地の文学館や図書館での資料調査を行い、貴重な文献や自筆原稿などの一次資料を可能な限り閲覧します。以上の作業から、現地調査で得た土地に関わる歴史や記憶を重ね合わせて、文学表現を新しく捉えなおすことが目的です。各自、文学散歩のコースを考案し、実際に他の参加者を現地案内することで成果発表とします。

【協力団体】

とくになし。

【プログラム期間中の流れ】

4月：構想発表会（各自のテーマについて参加者全員で共有、参加人数によってはグループテーマに取り組む）。
参加者各自の調査活動を開始する。

5月：教員作成の文学散歩コース散策（旧谷崎邸「石村亭」、法然院（谷崎潤一郎の墓）、芦屋市谷崎潤一郎記念館、鞍馬寺、貴船神社、普陀落寺など）。
参加者各自の調査活動を並行して行なう。

6月：グループワーク（読書会など）、グループＦＷ（東京などの遠隔地での短期調査）、参加者各自の調査活動。

7月：参加者考案による文学散歩（成果報告）。

【個々人で取り組むテーマの例】

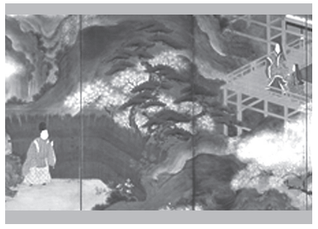
・「源氏物語を散歩する―恋文が運ばれた「ミチ」をたどる―」（「源氏物語」を対象に、当時の貴族の生活様式についての文献を調査する。また、本作に出て来る恋文を調べて実際に作成し、手紙がどのように相手のもとに運ばれて行ったのか、その足跡を自分の足で辿る）

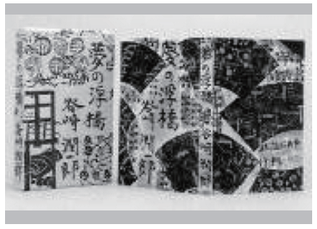
・「京都を舞台とした近現代文学作品のマップ作成―森見登美彦作品を中心に―」（『夜は短し歩けよ乙女』に描かれる「下鴨神社」「糺の森」、『四畳半神話大系』の「猫ラーメン」（出町柳に不定期に出現する屋台）、『太陽の塔』の「叡山電車」など作品の舞台の地図を作成し、その他の作家の京都の描き方と比較する）

・「新海誠『言の葉の庭』聖地巡礼および本作における「恋」の形―『万葉集』との関連―」（新海誠監督のアニメ『言の葉の庭』を対象に、作品の舞台（新宿御苑）を実際に訪れ、作品と同じ構図で写真を撮影して作品表現の特徴を分析する。また、登場人物の自室にある「本棚」の中から「どういった作品が置かれていて、どういった内容なのか」という点に着目し、そのなかの一冊である「万葉集」に描かれた世界との関連性を調査する）

【想定される費用内訳】

・現地調査に要する交通費：20,000 円
・文学館などでの見学料：2,000 円
・コピーなどに関する資料費：3,000 円
・総額：25,000 円


若紫（紫の上）を見初める光源氏（土佐光起筆「源氏物語図屏風 若紫」、福岡市美術館蔵）


谷崎潤一郎『夢の浮橋』（1960、中央公論社）

旧谷崎邸「後の潺湲亭」（石村亭）内部

小野小町の老衰像（補陀落寺）

和泉式部の歌碑（貴船神社）

森見登美彦『夜は短し歩けよ乙女』（2006、角川書店）

テーマ５

古都の魅力を楽しむ・発信する
～文化財の活用・公開実践～

担当教員：惠阪 友紀子・柳沢 菜々
想定費用：市内交通費など
（内訳は下記参照）
定　　員：10名

現在、日本の「古都」として親しまれている京都は、毎年国内外から多くの観光客を迎え、寺社仏閣などの様々な歴史的建造物や、伝世の美術・工芸品が高い人気を集めています。一方で、地中には、地上からは姿を消してしまった古い時代の人々の生活痕跡が遺跡となって眠っています。このような遺跡や、発掘調査によって掘り出された遺物もまた、京都という地域を知り、そこに生まれた社会や歴史、文学などを考えるための大切な文化財です。

このプログラムでは、京都市埋蔵文化財研究所の活動に参加することを通じて、文化財の調査・保存・公開の現場にふれ、その体験をふまえて、文化財を活用しながら「古都」京都の魅力を社会へ向けて発信する方法を考え、実践していきます。

文化財をめぐって、文学や歴史にまつわる調査をおこなうだけで終わらせず、その成果をどう現代社会において活かすのか、どうやって他者（例えば国外からの観光客、現地に住んでいる人々、小・中学生など）に伝えていくのかを考えるテーマです。

【協力団体】

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（京都市考古資料館）
http://www.kyoto-arc.or.jp/

【プログラム期間中の流れ】

4月：①参加者それぞれのテーマに沿った調査を始める
②京都市埋蔵文化財研究所の発掘調査に加わり、京都市内の遺跡調査を体験
③京都市内の小学校で、歴史体験授業をサポート

5月：①参加者のテーマ別調査活動を引き続き実施
②発掘出土品の整理作業に参加し、文化財保存の現場にふれる
③美術館・博物館への調査・見学

6月：京都市考古資料館の展示替えをおこない、文化財の公開・発信にたずさわる

7月：参加者各自のテーマについて進捗状況の中間報告会、報告書に向けた追加調査

【個々人で取り組むテーマの例】

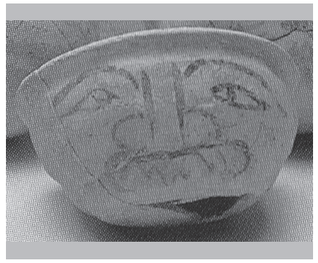
・「遺跡×観光」プランナー
・京都市民の史跡認識調査
・文学・文化の保存と継承
・文学の生まれた背景～平安貴族の生活研究～
・平安京職人体験～土器つくり実践～

【想定される費用内訳】

・発掘調査現場および整理作業現場（京都市内）までの往復交通費
・発掘調査参加時の保険費用、作業用文具など購入費
・テーマ調査にかかるコピーなど資料代
・美術館・博物館等の入館料

陽明文庫 虎山荘
（藤原道長等、五摂家筆頭の近衛家に伝わる古文書を保存）

御堂関白記
藤原道長の日記
（世界記憶遺産、陽明文庫蔵）


長岡京跡出土
人面墨書土器
（平安時代の祭祀具）

奈良文化財研究所での見学
（平城宮跡出土木簡）

京都精華大構内・中の谷４号窯
（平安時代の陶器生産窯）

京都市考古資料館での遺物見学
（中の谷窯出土遺物）

テーマ６

企業研究～社会的課題を解決する企業で調査・実践する

担当教員：服部 静枝
想定費用：調査地との往復交通費
（詳細は内容確定後に提示する）
定　　員：５名

ＮＰＯとは民間の非営利組織で、社会問題の解決に取り組む任意団体です。「非営利」といっても、利益を出してはいけないという意味ではなく、事業で得た利益を構成員に分配せず、社会的な活動に充てることを目的としています。特に、法人格を取得した組織をＮＰＯ法人（特定非営利活動法人）といいます。2018 年度フィールドプログラムでは、「ＮＰＯ法人 木野環境」で調査・提案活動を行います。テーマ（大枠）はまだ確定しきれていませんが、今回は環境活動に取り組む組織を支援するツール等を作成してもらうことを検討中です。

キーワード：社会的事業（ソーシャルビジネス）、環境保全活動、支援ツール、提案

【協力団体】

ＮＰＯ法人 木野環境　http://www.kino-eco.or.jp/
事 務 所：京都市下京区葛籠屋町 515-1（地下鉄「四条駅」、阪急「烏丸駅」から徒歩８分）
事業目的：「行政、企業、団体、市民に対して環境問題の解決、農山漁村又は中山間地域の振興、情報化社会の発展を図る活動、経済活動の活性化を図る活動に関する事業を行い、持続可能な社会に寄与することを目的とする」（ＮＰＯ法人木野環境 定款）

【プログラム期間中の流れ】

未確定要素もありますが、概ね以下のような流れで考えています。
４月：組織のルール確認。テーマの共有
　　支援ツール等の作成開始
６月：提案
７月：改善と再提案

【個々人で取り組むテーマの例】

・ポスター制作
　分別支援、安全標語、節電のヒント / 工夫
・雑がみ分別マニュアルの作成
・支援ツールサイトの作成
・環境マネジメントシステム構築ツール

【2017 年度プログラム】

デイサービスセンターは、高齢者に日帰り（自宅から施設までの送迎付き）で食事や入浴の支援、レクリエーション、機能訓練等のサービスを提供する通所介護施設です。2017 年度プログラムでは、「デイサービスセンター虹 精華大前」で各自がテーマ設定を行い（下記のとおり）、調査及び提案活動に取り組んでいます。

■テーマ
・「デイサービスセンター虹における環境音の効果」
・「デイサービスセンター虹 ～リスクマネジメント及び企業評価～」
　①満足度調査結果をもとにした課題解決のための提案
　②ＢＣＰ（事業継続計画）の構築
　③第二者評価の仕組みづくり

「デイサービスセンター虹 精華大前」は 2015 年５月に開設された事業所で、運営法人は「株式会社あいりす」（2013 年設立）です。要支援者及び要介護者の心身の特性を踏まえて、日常生活上の支援及び機能訓練サービスを提供することにより、利用者の社会的孤立感の解消、心身機能の維持 / 向上、利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ることを目指しています。組織形態は株式会社ですが、本業が福祉事業であることから「ソーシャルビジネス」と呼ぶこともできます。（ソーシャルビジネスとは、子育て、高齢化、地域連携、環境問題など様々な社会的課題の解決に、ビジネスの手法を用いて取り組む事業のことです）

「デイサービスセンター虹 精華大前」の外観と室内

テーマ７

京都の山々 －その自然と文化－

担当教員：山名 伸生、小椋 純一
想定費用：0～5万円
定　　員：10名

京都を囲む山々は、古くから貴重な水源であり、燃料や建築資材の供給地でもありましたが、その山々の中には比叡山や愛宕山のように、日本の宗教の中心的な寺社がある山もあります。また、大文字山などのように、お盆の送り火で全国的に知られた山もあります。あるいは、嵐山は京都で最も観光客が多い嵐山地区のシンボルです。

また、京都盆地の北に広がる北山の山間部には、昔から続く火祭りや祭礼が今も残るところがあります。京都の市街地は、度重なる戦乱や火事で、古いモノはあまり残っていないのに対し、郊外の山地には古い文化財が多く残っているところがあります。また、そこには古い形を残した芸能や年中行事が伝わっています。ただ、今も残る芸能や年中行事などの中には、近年の人口減少で、その存続が危ぶまれているものもあり、その存続が大きな課題となってきています。

なお、京都周辺の山々のほとんどは、今は豊かな緑に覆われていますが、さまざまな資料をもとに調べてみると、かつては草木もないようなハゲ山も珍しくなかったことが見えてきます。比叡山南方中腹のハゲ山は、昭和初期頃まで「比叡アルプス」などと呼ばれていました。また、かつての京都周辺の山々にはアカマツ林が多く、マツタケもよく採れましたが、今ではマツ林はほとんどなくなっています。その自然景観変化の背景には、人々の暮らしの変化があり、またそうした自然景観の歴史の中で、お盆の送り火が生まれたり、また消えたりもしてきたと思われます。

【プログラム期間中の流れ】

個々のテーマにより異なりますが、一般的な流れとしては、４月～６月は文献調査とフィールド調査、７月はまとめ作業となります。

【個々人で取り組むテーマの例】

・京都の山々と山岳信仰（延暦寺や愛宕山神社など、京都の山の寺院や神社、また古代遺跡をたずね、重層的な宗教文化を分析し、先人や現代人の祈りの意味を考えます。）

・比叡山への道（比叡山には多くの僧侶や参拝客などが通った多くの山道があります。明治後期には文豪、夏目漱石もその山道を登りました。そうした比叡山への道について調べます。）

・大文字送り火の起源（大文字山などでの送り火の起源については、まだよくわかっていません。その送り火の起源について、さまざまな資料などをもとに調べます。）

・消えた送り火（「い」の字をはじめ、かつては今よりも多くの送り火が京都周辺の山にありました。そのことについて調べてみます。）

・石仏めぐり（京都では路傍などに古い石仏が見られるところがあります。そうした石仏は京都近郊の山の石を用いて造られたものが少なくありません。京都に残る磨崖仏や石造美術品を調査し、そこから当時の宗教観や社会背景などを考えます。）

・愛宕山ケーブルカーの歴史（京都近郊の山で最も高い愛宕山には、第二次世界大戦中まで、その山に登るためのケーブルカーがあり、今もその廃墟が残っています。その歴史などについて調べます。）

・京都の山とケーブルカー（比叡山や鞍馬山には、今もケーブルカーがあります。かつてあった愛宕山のものも含め、京都のケーブルカーの歴史や現状について調べます。）

・京都の山道－東海自然歩道と京都一周トレイル－（京都周辺には、快適なハイキングコースとして、東海自然歩道や京都一周トレイルがあります。それらのコースを実際に歩いてみたり、利用者への聞き取りをしてみたりしながら、その現状や問題点などについて考えます。）

・山村の食文化（トチ餅や納豆、しば漬けなど、山間地独特の食材を通して、その社会的、自然的条件を考え、先人の工夫を偲びます。）

・北山地域の松上げ（京都北山地域には花脊八桝や広河原などで、毎年８月の夜に松上げと呼ばれる火の行事が行われています。その歴史や現状について調べます。）

・北山地域の祭礼（京都北山地域では鞍馬寺の竹伐り会式〈６月〉や貴船神社の水祭り〈７月〉など、毎年さまざまな祭礼や行事が行われています。それらの歴史や現状について調べます。）

・西山の竹林（京都西山地域には、今も竹林が広く見られます。その竹林の歴史や現状などについて調べます。）

・嵐山地区の名所の変遷（嵐山は京都で観光客が最も多く訪れるところですが、その嵐山地区で観光客が訪れる場所は、昔と今では大きく変わってきています。その実態について調べます。）

※以上はわずかな例であり、ほかにもさまざまなテーマが考えられます。

【想定される費用内訳】

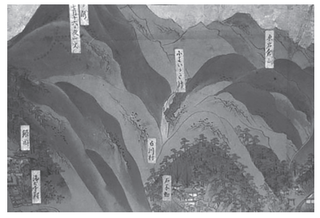
交通費（自転車を使えば、無料に抑えることもできます）。北山の山間部などで宿泊が必要な場合は宿泊費が必要です。

比叡山（高野川沿いより）

比叡山ケーブルカー（昭和初期）

北山地域の松上げ（毎年８月）

大文字送り火（毎年８月16日）


『洛外図』（江戸初期）に描かれた大文字山付近

嵐山と渡月橋（桂川沿いより）

テーマ８

郷土伝統芸能から日本文化を考える

担当教員：三上 賀代
想定費用：内容による
定　　員：５名

日本各地に伝承されている芸能文化（祭りを含む）の内容と伝承方法等を現地調査し、日本文化の特性を考察します。

阿波踊り、ねぶた、京都の祭礼他、各自の郷土伝統芸能の内容と伝承方法の調査、さらに地域の文化施設の活動（ダンスや演劇等も含む）と運営の調査から、日本伝統芸能と表現活動のあり方を考察します。

徳島県では農業研修を兼ねて神楽等の調査研究も可能です。また、青森県では恐山麓の寺に滞在し、ねぶた等の芸能文化調査も予定されます。

【協力団体】

徳島　阿波踊り保存会

青森　恐山麓の龍本寺、寺山修司記念館

秋田　土方巽記念館

【プログラム期間中の流れ】

４月～６月　準備期間として事前の文献研究、現地への下見と関係者とコンタクト開始

７月～８月　現地の祭り等に体験参加

９月　報告書制作

【個々人で取り組むテーマの例】

・農村（奈良山中）における芸術教育

・青森県寺山修司記念館における入館者の意識調査とねぶた制作体験

【想定される費用内訳】

現地への交通費、宿泊費は現地受入先と交渉。

ねぶた※1

ねぶた※1

早池峯（はやちね）神楽※2

阿波踊り※3

※１.「青森ねぶた祭りオフィシャルサイト」より
http://www.nebuta.jp/

※２.「花巻観光協会」ウェブサイトより
http://www.kanko-hanamaki.ne.jp/

※３.「Wikipedia」より
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%98%BF%E6%B3%A2%E8%B8%8A%E3%82%8A

5. 国内自由型

5-1. 履修の流れ（国内自由型）

2018 年

【前期】

4 月 ..... フィールド・プログラム全体説明会・履修相談
4 月以降 ..... アドバイザー教員との相談・プログラム概要作成
6 月末 ..... 参加プログラム仮登録配布（地域学）・個別面談開始
7 月中旬 ..... 参加プログラム仮登録用紙提出
9 月末 .....「現場学」クラス発表

【後期】

10 月 .....「現場学」履修開始
1 月末 .....「フィールド・プログラム計画書」報告会
3 月 ..... 3 年次進級判定

2019 年

【前期】

4 月 ..... プログラム開始
5 月 ..... 中間報告（テーマにより回数・時期は異なります）
7 月 ..... プログラム修了・仮レポート提出
9 月 .....「専門演習 3」（集中講義）履修開始
9 月末 .....「フィールド・プログラム最終報告書」提出（専門演習 3）

【後期】

11 月初旬 ..... フィールド・プログラム報告展
1 月末 ..... 交通費補助申請締切

5-2. 科目評価の構成（国内自由型）

現場学	毎回の授業への出席状況や課題・発表への取り組みに加え、授業内で作成するフィールド・プログラム計画書の内容、1月末に行われるフィールド・プログラム計画書報告会での発表内容を評価します。
フィールドスタディーズ 1	フィールド・プログラム計画書で設定したフィールドワークが適切に実施されているかを評価し、「フィールドスタディーズ 1 ～ 5」の 5 科目× 2 ＝ 10 単位分の成績に割り当てます。
フィールドスタディーズ 2	
フィールドスタディーズ 3	
フィールドスタディーズ 4	
フィールドスタディーズ 5	
フィールドスタディーズ 6	11 月初旬に予定されているフィールド・プログラム報告展で展示する報告パネル等の作成への取り組み、また報告展での作業内容（設営、報告展当日の案内・説明係の当番、撤収等）を評価します。
専門演習 3	3 年次前期の日報あるいは週報がスケジュール通りに提出されているか、またフィールド・プログラム最終報告書に1年次（場合によっては入学前）から取り組んだフィールド・プログラムの内容が十分に盛り込まれているかを評価します。

5-3. 注意事項（国内自由型）

担当：小松・澤田

問題関心がきわめて明確で、自ら調査の企画・計画をきちんと立てることができる学生を対象に、国内自由型というプログラムを設けます。これは、教員のアドバイスを受けながら自らテーマを決定し、国内で実行するプログラムです。「自由」という意味は、テーマがあらかじめ定められておらず、自分で決定しなければならない、ということです。くれぐれも、各自が何でも「自由」に行動できることではない点にご注意下さい。何をどうすればよいのかがあらかじめ定められていないため、国内テーマ型よりも難易度はかなり高くなります。なお、3 年次前期は、責任ある指導を行うため、最低 7 回は毎週行う相談授業に出席することが必要です。このことは「長期に渡るフィールドに出っぱなしはできない」ことを意味します。このプログラムを希望する学生は、自らの計画に対して助言・指導をすることが可能な人文学部の教員（アドヴァイザー教員）を探して相談し、6 月末までに必ずその教員の承諾を得るようにしてください。また、プログラム担当の小松正史・澤田昌人両教員の面接を事前に受けて許可を得る必要もあります。2 年次後期の「現場学」では、時間外にアドヴァイザー教員の指導を受けながら、小松正史・澤田昌人両教員のもとで計画書を作成することになります。

6. その他

6-1. プログラム中のケガや事故について
（学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険）

本学の学生は、『学生教育研究災害傷害保険』と『学研災付帯賠償責任保険』に全員加入しています。

『学生教育研究災害傷害保険』とは・・・

被保険者が在籍する大学の国内外における教育研究活動中に生じた急激かつ偶然な外来の事故によって身体に傷害を被った場合に支払われる保険です。ただし「病気」はこの保険の対象となりません。

『学研災付帯賠償責任保険』とは・・・

日本国内外において、保険期間中に学生が、正課、学校行事およびその往復で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上支払わなければならない損害賠償金が支払限度額の範囲内で支払われる保険です。

もしもプログラム中に上記のような事態が発生した場合、まずは担当教員に相談をして下さい。教員と連絡がつかない場合には、学生グループまたは教務グループに相談をして下さい。

学生グループ

電話番号：075-702-5101

メールアドレス：gakusei@kyoto-seika.ac.jp

教務グループ

電話番号：075-702-5119

メールアドレス：kyoumu@kyoto-seika.ac.jp

5-3. 交通費補助について

このプログラム（3年前期）については1科目あたり上限2,000円の半額補助があります。「フィールドスタディーズ1～6」の計6科目で以下の計算となります。

2,000円　×　6科目　＝　12,000円

※補助対象種類：期間中、調査に要した交通費、宿泊費

支給される補助費には条件がありますので、教員と確認をして下さい。例えば――

・期間中の交通費で合計30,000円を負担した場合・・・上限12,000円が補助されます。
・期間中の交通費で合計6,000円を負担した場合・・・半額の3,000円が補助されます。

なお、この活動補助を受けるには、領収証（宿泊費、特急料金や航空運賃について）あるいは旅費明細（プログラム中の活動に要したすべての旅程表と運賃一覧）を1月末日までに「フィールドスタディーズ」担当教員に提出する必要があります。プログラム期間中の領収証の保管、移動に関する記録を心がけましょう。